

2012年度上期決算 投資家説明会

2012年11月22日

株式会社三井住友フィナンシャルグループ
株式会社三井住友銀行

本日のアジェンダ

I. 2012年度上期決算

1. 2012年度上期総括	2
2. 2012年度上期業績サマリー	3
3. 主要グループ会社の連結業績寄与	4
4. 部門別実績	5
5. 貸出金残高	6
6. 海外貸出金・海外預金	7
7. 貸出金スプレッド	8
8. G-SIBsの格付推移	9
9. 外貨調達	10
10. 「国内資金利益減少トレンド」に関する論点	11
11. 国債等債券損益	12
12. 債券ポートフォリオ	13
13. 「JGB保有リスク」に関する論点	14
14. 経費	15
15. クレジットコスト	16
16. 不良債権残高	17
17. 政策保有株式	18
18. 2012年度業績予想	19

II. 中期経営計画の進捗状況

1. 中期経営計画における戦略施策の進捗状況	20
2. 財務目標の進捗状況	21
3. 資本政策、株主還元	22
4. 環境認識	23
5. 投資判断の基準	24



III. グループ経営戦略

1. グループ概要	25
2. SMBC日興証券	26
3. SMBCコンシューマーファイナンス	28
4. SMBC Aviation Capital	31
5. 経営のポイント “3つのC”	33

IV. SMBCの事業戦略

1. 個人向け金融コンサルティング	34
2. 法人向けトータルソリューション	36
3. グローバル展開	42

Appendix

1. 2012年度上期総括

連結中間純利益は5月予想比上振れ。連結当期純利益予想を上方修正

- SMBC単体の上振れに加え、**グループ各社の好業績**もあり、SMFG連結中間純利益は3,310億円と、5月予想比+810億円の上振れ
- SMBC単体では、株式の償却等が発生したものの、**国際部門などマーケティング部門の堅調な実績**や、**市場営業部門の好調**、与信関係費用の減少等から、中間純利益は2,397億円と、5月予想比+397億円の上振れ
- 連結当期純利益予想(通期)を4,800億円から5,400億円へ上方修正

1株当たり情報(SMFG連結)

	12年度 中間期	5月予想比	前年同期比	12年度 (11月予想)	5月予想比
1株当たり当期純利益	244.50円	+59.86円	+19.46円	398.84円	+44.32円
ROE(株主資本ベース)*	12.8%		+0.2%		
配当	50円	-	-	100円	-
	12/9月末	12/3月末比			
1株当たり純資産	3,966.30円	+109.93円			

* 年率換算

2. 2012年度上期業績サマリー

P/L

		11年度	12年度 中間期	5月 予想比	前年 同期比
		(億円)			
SMBC 単体	業務粗利益	15,325	7,867	+567	▲328
	うち 国債等債券損益	1,525	1,173		▲71
	経費*1	▲7,195	▲3,580	+20	▲34
	<経费率>	46.9%	45.5%	△3.8%	+2.2%
	業務純益*2	8,130	4,287	+587	▲362
	与信関係費用	▲586	244	+544	+273
	株式等損益	▲152	▲1,336		▲875
	経常利益	6,953	2,745	▲355	▲1,230
	中間(当期)純利益	4,780	2,397	+397	▲509
SMFG 連結	経常利益	9,356	4,682	+82	▲783
	連単差	2,403	1,937	+437	+448
	中間(当期)純利益	5,185	3,310	+810	+173
	連単差	405	913	+413	+681

格付(SMBC)

Moody's	Aa3 / P-1	R&I	A+ / a-1
S&P	A+ / A-1	JCR	AA / J-1+
Fitch	A- / F1		

主要グループ会社の 連結中間純利益寄与(概数)

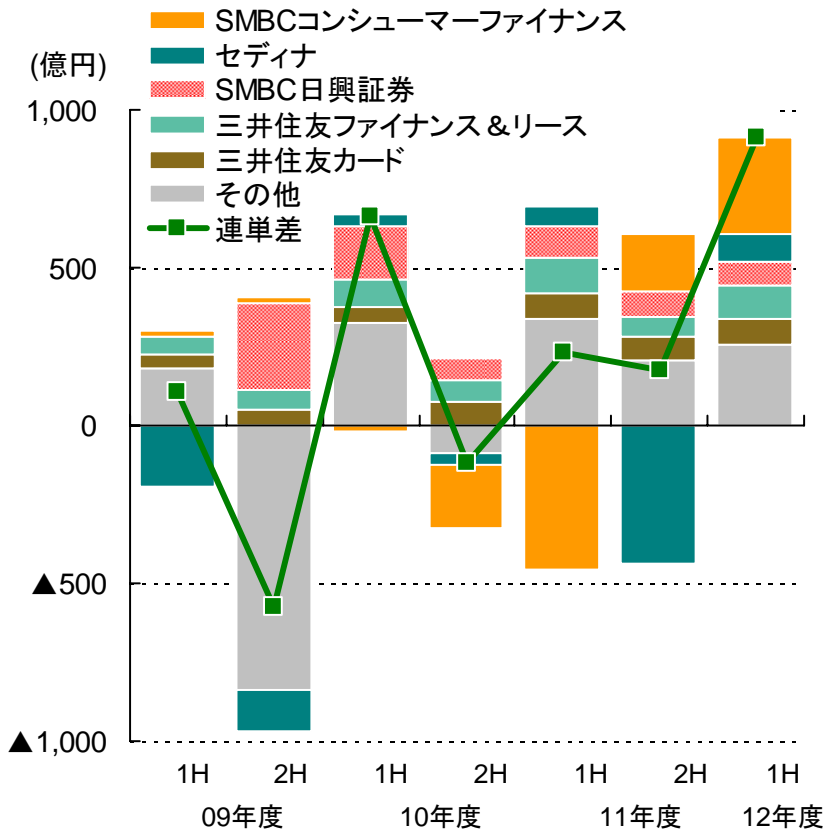
	12年度 中間期	前年 同期比
(億円)		
SMBC消費者金融ファイナンス*3	310	+770
SMBC信用保証	120	▲10
三井住友ファイナンス&リース	110	▲10
セディナ	90	+30
三井住友カード	80	▲0
SMBC日興証券	80	▲30
三井住友銀行(中国)	50	+20
欧州三井住友銀行	50	+20

*1 臨時処理分を除く *2 一般貸倒引当金繰入前 *3 2011年12月に連結子会社化したため、前年度中間期は22%出資の持分法適用会社、今年度は全額出資の連結子会社

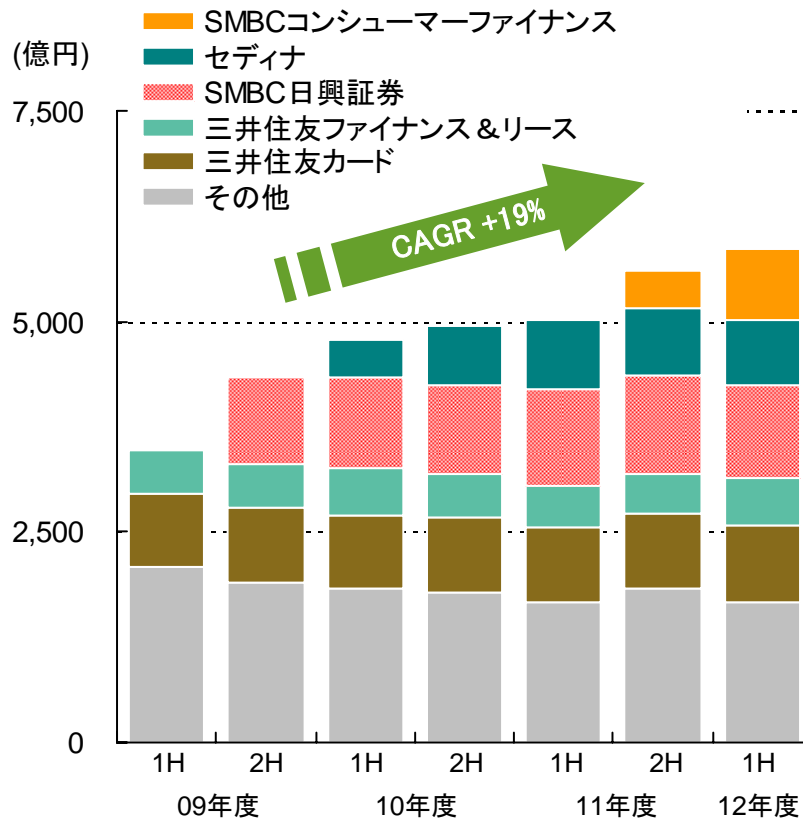
3. 主要グループ会社の連結業績寄与

- 純利益：2012年度上期において、主要各社は全て黒字化
- 粗利益：グループ各社の連結寄与は、年率2桁ペースで成長

連結純利益に対する寄与



連結粗利益に対する寄与



4. 部門別実績*1

部門別利益

		(億円)	11年度 中間期	12年度 中間期	前年 同期比*1
個人部門	粗利益		1,923	1,748	▲ 106
	経費		▲ 1,430	▲ 1,409	△ 24
	業務純益		493	339	▲ 82
法人部門	粗利益		2,088	2,018	▲ 40
	経費		▲ 1,108	▲ 1,067	△ 24
	業務純益		980	951	▲ 16
企業金融部門	粗利益		1,026	961	▲ 18
	経費		▲ 189	▲ 195	▲ 2
	業務純益		837	766	▲ 20
国際部門	粗利益		935	1,073	+ 120
	経費		▲ 310	▲ 363	▲ 45
	業務純益		625	710	+ 75
マーケティング部門	粗利益		5,972	5,800	▲ 44
	経費		▲ 3,037	▲ 3,034	△ 1
	業務純益		2,935	2,766	▲ 43
市場営業部門	粗利益		2,273	2,017	▲ 256
	経費		▲ 95	▲ 102	▲ 8
	業務純益		2,178	1,915	▲ 264
本社管理	粗利益		▲ 50	50	▲ 28
	経費		▲ 414	▲ 444	▲ 27
	業務純益		▲ 464	▲ 394	▲ 55
合計	粗利益		8,195	7,867	▲ 328
	経費		▲ 3,546	▲ 3,580	▲ 34
	業務純益		4,649	4,287	▲ 362

プロダクト別粗利益

		(億円)	前年 同期比*1
ウチ 国内貸出金収益		2,306	▲ 128
国内円預金収益		743	(+ 13)
国際部門金利関連収益*2		641	(+ 91)
金利収益		3,984	▲ 19
ウチ 投資信託		178	▲ 97
一時払終身保険		68	(+ 20)
平準払保険		55	(+ 25)
個人向けコンサルティング関連収益		336	▲ 68
ウチ シンジケーション関連		206	(+ 4)
ストラクチャードファイナンス*3		250	(+ 6)
不動産ファイナンス*3		142	▲ 15
投資銀行ビジネス関連収益*3		709	▲ 5
ウチ デリバティブ販売		90	(+ 13)
振込・EB		457	▲ 8
外為収益		216	▲ 1
国際部門非金利収益*2		459	(+ 30)
非金利収益		1,816	▲ 25
マーケティング部門粗利益		5,800	▲ 44

金利・為替影響等: ▲128億円

(表面ベース)
前年同期比:
▲172億円

期中平均貸出残高・スプレッド

	平均残高		スプレッド	
	12年度 中間期	前年 同期比*1	12年度 中間期	前年 同期比*1
国内貸出	45.8	▲2.3*4	1.04	▲0.01
ウチ 個人部門	15.2	▲0.2	1.44	▲0.02
ウチ 法人部門	16.3	▲0.4	1.08	▲0.07
ウチ 企業金融部門	11.5	▲0.2	0.66	▲0.02
国際部門運用資産*5	1,425億ドル	+231億ドル	1.16	+0.07

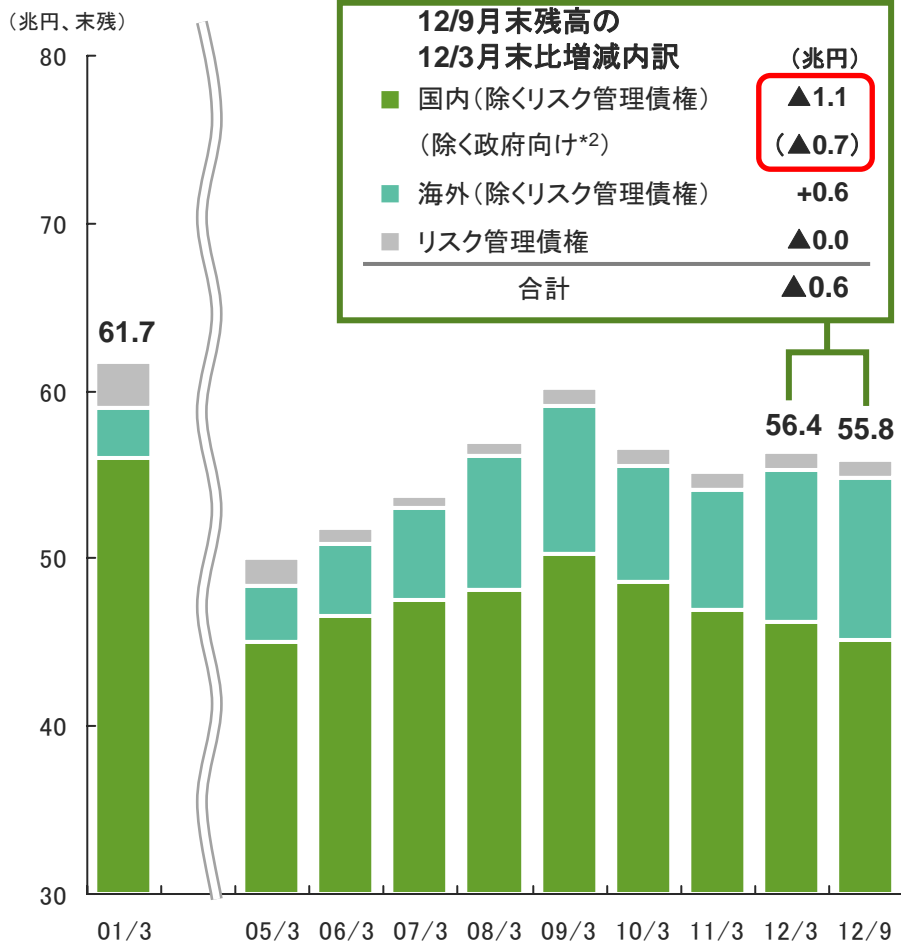
*1 金利・為替影響等を除くベース *2 香港・台北支店における日系企業取引収益を含む *3 金利収益を含む

*4 うち交付税特別会計等政府向け貸出の減少 ▲1.8兆円 *5 貸出金・貿易手形・有価証券の合計

5. 貸出金残高

SMBC単体

貸出金残高の推移*1



国内部門別貸出金残高(内部管理ベース)

(兆円、末残)	12/9月末	12/3月末比
個人部門	15.1	▲ 0.2 ^{*3}
法人部門 ^{*4}	16.3	▲ 0.3
企業金融部門	11.6	▲ 0.1

海外地域別貸出金残高*5(内部管理ベース)

(兆円、末残)	12/9月末	12/3月末比	除く 為替影響
海外合計	11.0	+ 0.5	+ 1.2
(うち日系企業向け)	(3.1)	(+0.3)	(+0.5)
アジア	4.4	+ 0.3	+ 0.5
(うち日系企業向け)	(1.1)	(+0.1)	(+0.1)
米州	3.5	+ 0.3	+ 0.5
(うち日系企業向け)	(1.5)	(+0.3)	(+0.3)
欧州	3.2	▲0.0	+ 0.2
(うち日系企業向け)	(0.5)	(▲0.0)	(+0.0)

*1 01/3月末は、旧さくら銀行・旧住友銀行の合算 *2 交付税特別会計等向け *3 12年度上期実施の住宅ローン証券化分の加算調整後(約600億円) *4 交付税特別会計等向けを除く

*5 SMBC、欧州三井住友銀行・三井住友銀行(中国)の合算。拠点ベース。

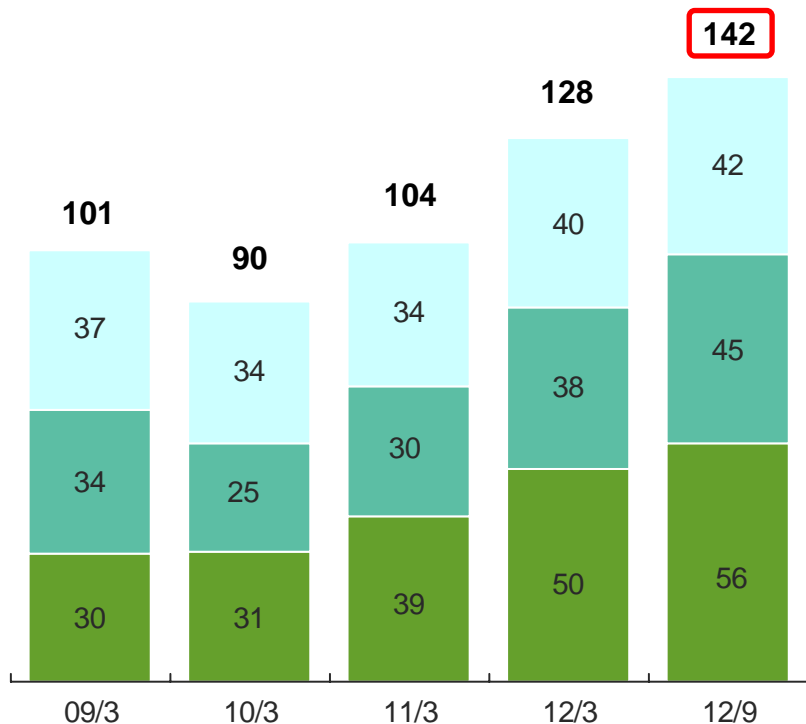
6. 海外貸出金・海外預金

海外貸出金残高*

(10億米ドル)

- 欧州
- 米州
- アジア

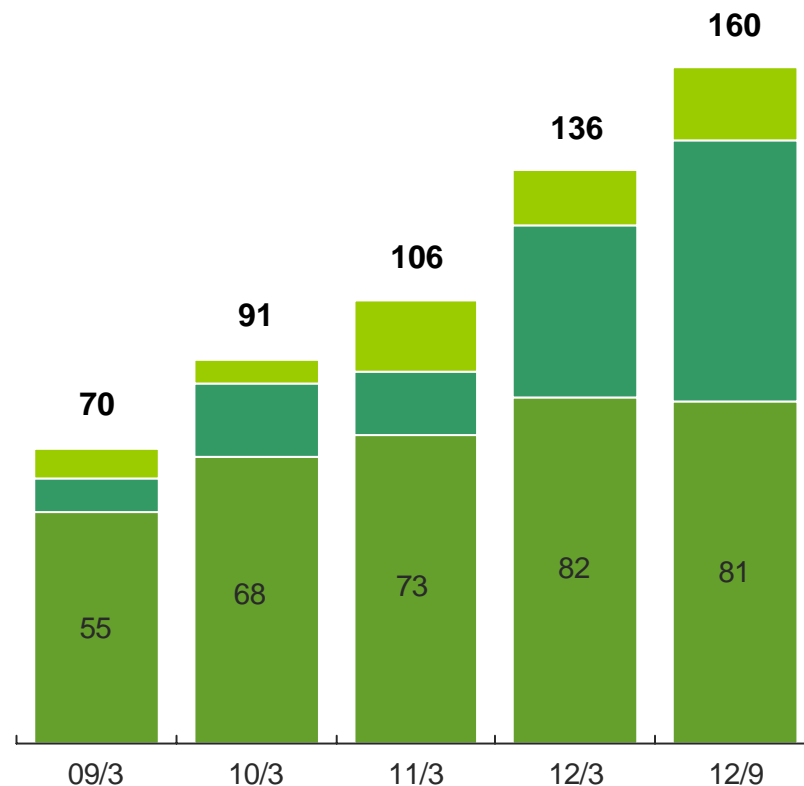
11/3末比	
合計	+380億米ドル(+3.2兆円)
うちアジア	+170億米ドル(+1.4兆円)



海外預金等残高*

(10億米ドル)

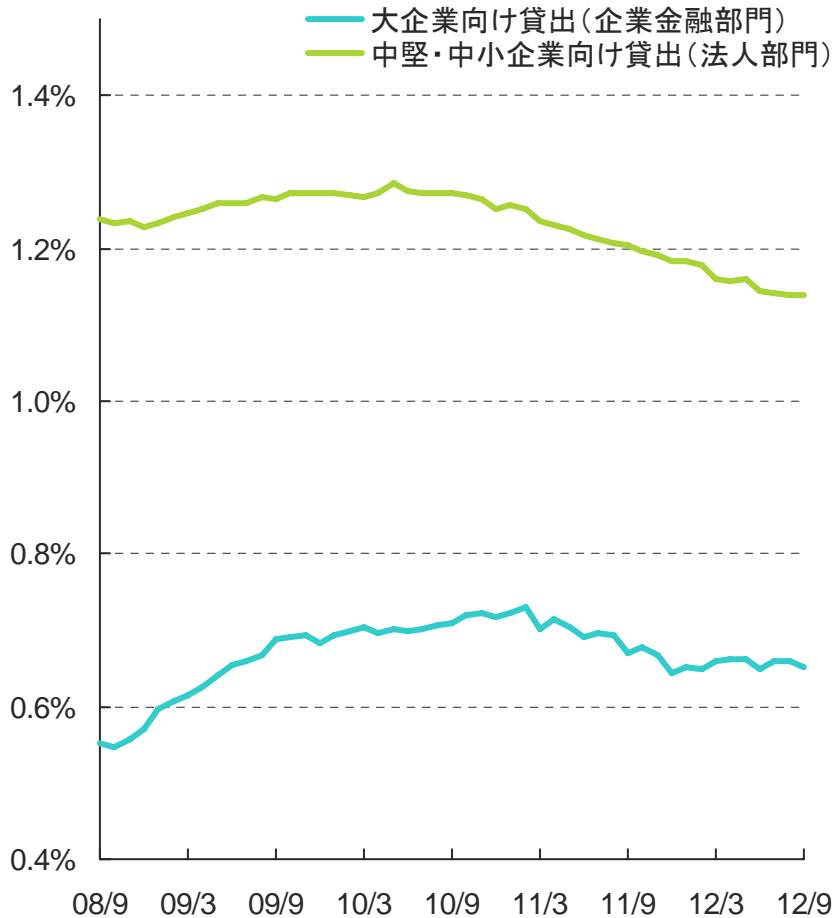
- CD・CP(3ヶ月未満)
- CD・CP(3ヶ月以上)
- 顧客性預金(含む中銀預金)



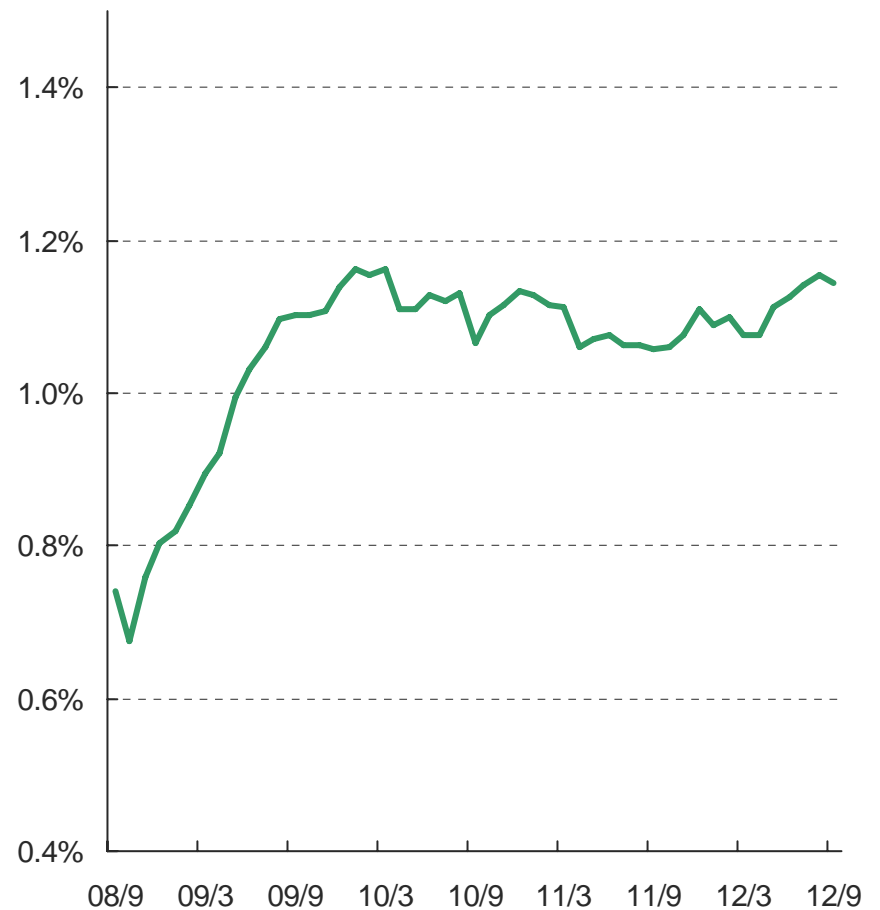
* 内部管理ベース(各期末換算レートにて換算)。SMBC、欧州三井住友銀行及び三井住友銀行(中国)の合算

7. 貸出金スプレッド*1

国内貸出金スプレッド*2



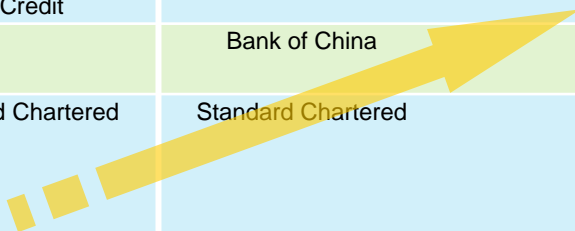
海外貸出金スプレッド*3



*1 内部管理ベース。ストックベース。 *2 SMBC単体 *3 SMBC、欧州三井住友銀行、三井住友銀行(中国)の合算

8. G-SIBsの格付推移(Moody' s)*

	2001年4月1日		2007年7月末		2012年10月末	
Aaa			Bank of America Bank of New York Mellon Citibank JPMorgan Chase Bank	Royal Bank of Scotland UBS Wells Fargo Bank		
Aa1	Bank of America Crédit Agricole	Wells Fargo Bank UBS	Banco Santander Barclays Bank BBVA BNP Paribas Crédit Agricole Credit Suisse	Deutsche Bank HSBC Bank ING Bank Nordea Bank Société Générale State Street Bank & Trust	Bank of New York Mellon	
Aa2	Bank of New York Mellon Barclays Bank BBVA Citibank HSBC Bank	ING Bank JPMorgan Chase Bank Royal Bank of Scotland State Street Bank & Trust	SMBC BPCE(Banque Populaire) BTMU	Mizuho CB/BK UniCredit	State Street Bank & Trust	
Aa3	Banco Santander BNP Paribas BPCE(Banque Populaire)	Deutsche Bank Société Générale UniCredit	Goldman Sachs Bank	Morgan Stanley Bank	SMBC BTMU	JPMorgan Chase Bank Nordea Bank Wells Fargo Bank
A1	Credit Suisse		Bank of China		Bank of China Credit Suisse	Mizuho CB/BK Standard Chartered
A2	BTMU	Standard Chartered	Standard Chartered		Barclays Bank BNP Paribas BPCE(Banque Populaire) Crédit Agricole Deutsche Bank	Goldman Sachs Bank ING Bank Société Générale UBS
A3	SMBC	Mizuho CB/BK			Bank of America Citibank	Morgan Stanley Bank Royal Bank of Scotland
Baa1	Bank of China					
Baa2					Banco Santander UniCredit	
Baa3					BBVA	



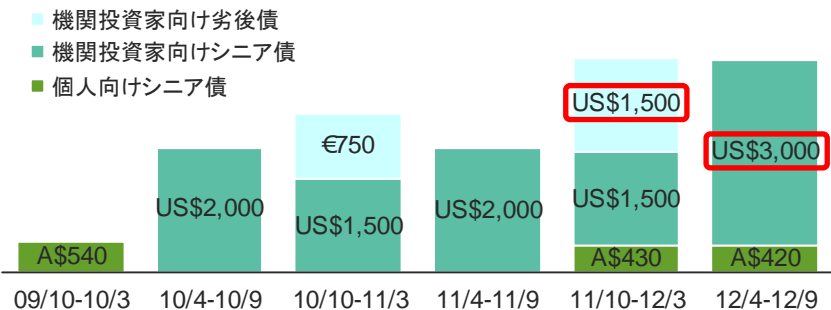
* コア銀行の長期発行体格付(存在しない場合は長期預金格付)

9. 外貨調達

外貨資金調達の多様化

- 海外機関投資家向け外貨建シニア債発行(12/7月)
- 国内個人向け外貨建シニア債発行(12/6月)

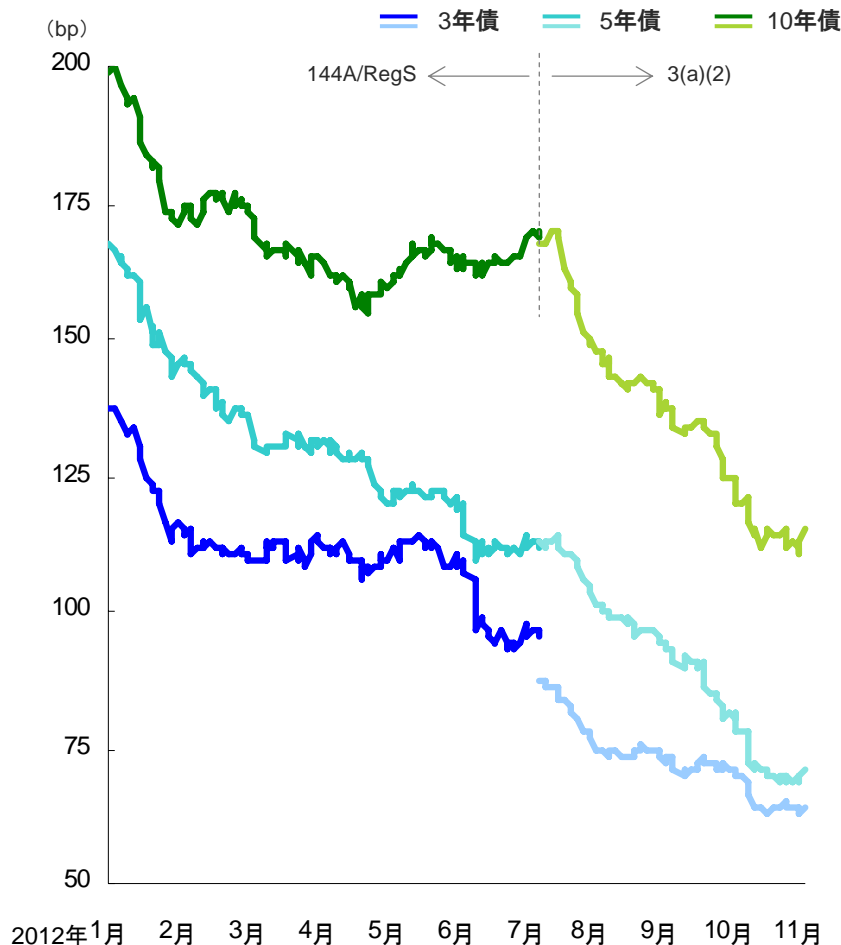
外貨建て債券発行額(百万通貨単位)



SMBCの直近の米ドル建シニア債発行時のスプレッド水準

年限	条件決定日	発行体	発行額 (百万米ドル)	クーポン (%)	スプレッド* (bp)	格付*2	
						Moody's	S&P
3年	2012/6/19	National Bank of Canada	1,000	1.50	T+120	Aa2	A
	2012/6/20	Wells Fargo & Co	2,000	1.50	T+115	A2	A+
	2012/7/10	Sumitomo Mitsui Banking Corp	1,000	1.35	T+100	Aa3	A+
	2012/7/26	National Australia Bank Ltd (NY)	1,250	1.60	T+133	Aa2	AA-
	2012/7/26	ANZ National International Ltd (LDN)	750	1.85	T+158	Aa3	AA-
	2012/7/31	Citigroup Inc	1,250	2.25	T+205	Baa2	A-
5年	2012/7/10	Sumitomo Mitsui Banking Corp	1,250	1.80	T+120	Aa3	A+
	2012/8/6	Westpac Banking Corp	1,250	2.00	T+138	Aa2	AA-
	2012/8/13	JPMorgan Chase & Co	2,500	2.00	T+135	A2	A
10年	2012/6/29	Citigroup Inc	750	4.50	T+250	Baa2	A-
	2012/7/10	Sumitomo Mitsui Banking Corp	750	3.20	T+170	Aa3	A+
	2012/7/31	Citigroup Inc	500	4.50	T+235	Baa2	A-

SMBCの米ドル建シニア債セカンダリースプレッド推移*1

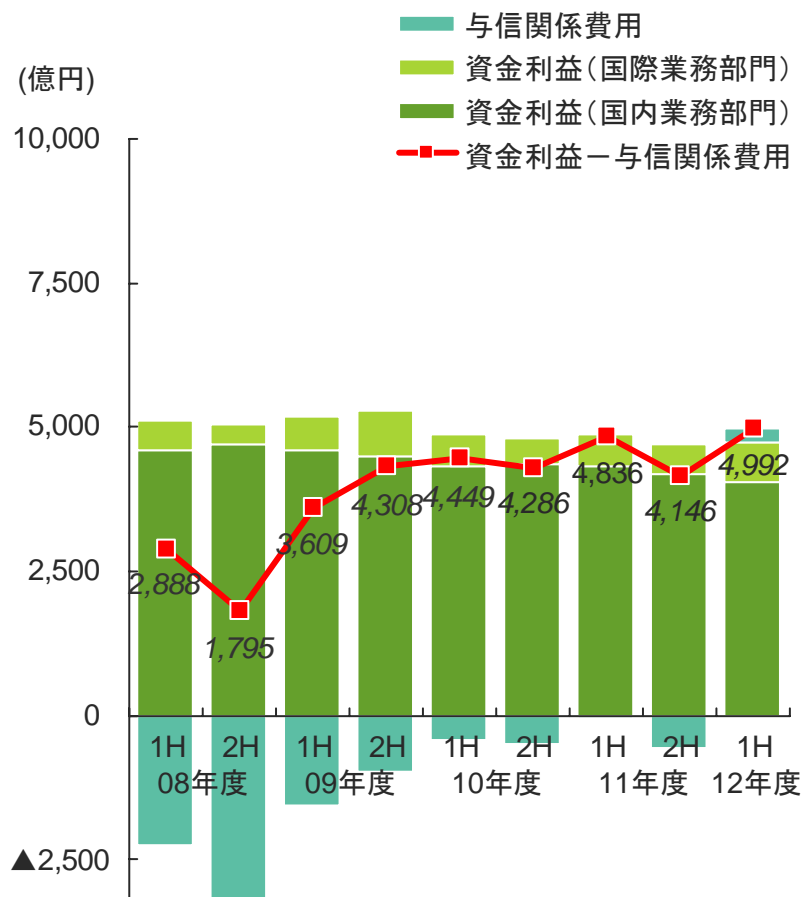


*1 出所: Bloomberg *2 発行時の格付

10. 「国内資金利益減少トレンド」に関する論点

SMBC単体

資金利益・与信関係費用の推移

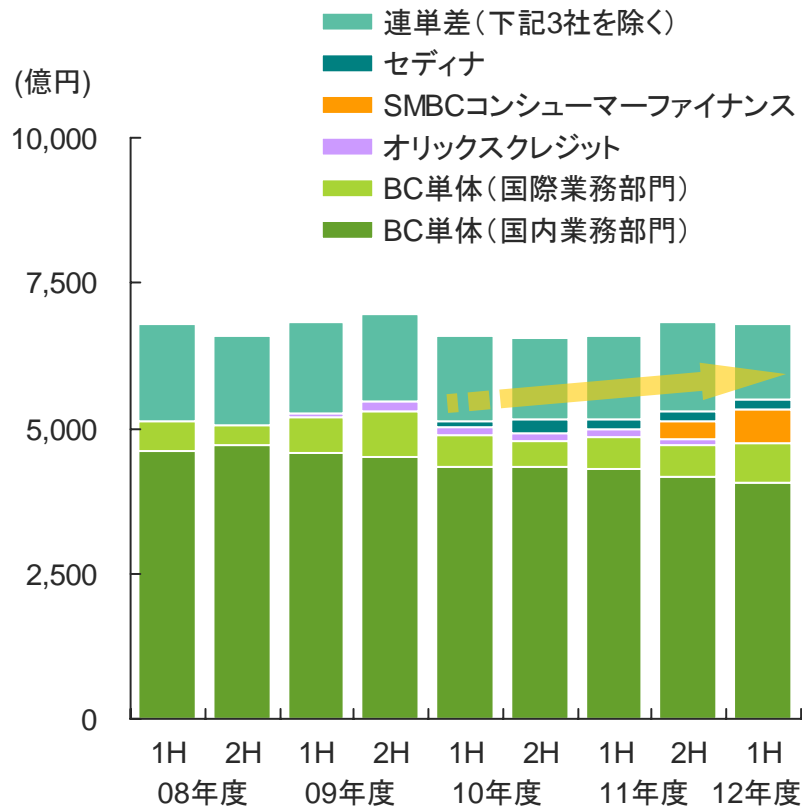


(兆円)

シンジケーション組成額	3.7	5.6	3.4	4.1	2.8	4.5	3.3	4.5	3.3
貸出金(国内店分)末残	48.3	51.2	51.5	49.5	50.5	47.9	48.9	47.2	46.1

SMFG連結

連結資金利益の推移



11. 国債等債券損益

SMBC単体

国債債券損益

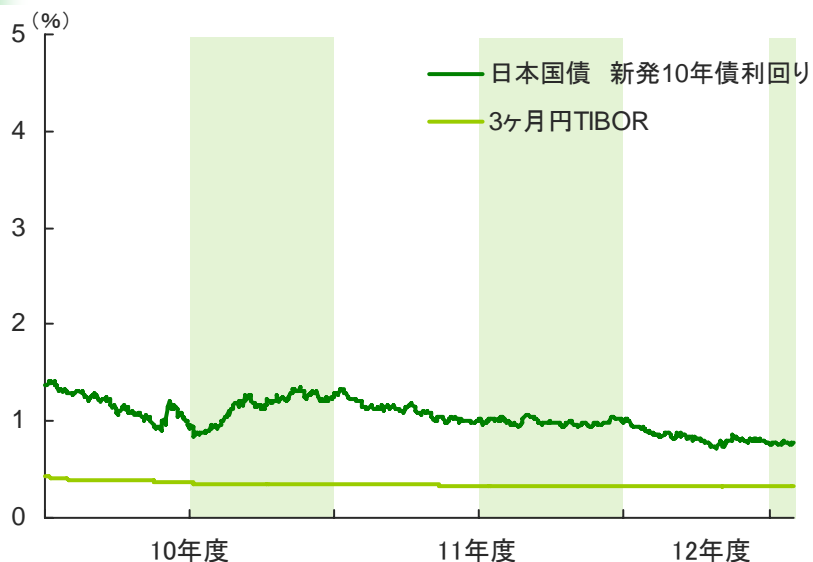
(億円)	11年度	12年度 上期	前年 同期比
	国債等債券損益	1,525	1,173
国内業務部門	232	309	+157
国際業務部門	1,293	864	▲228

市場営業部門粗利益

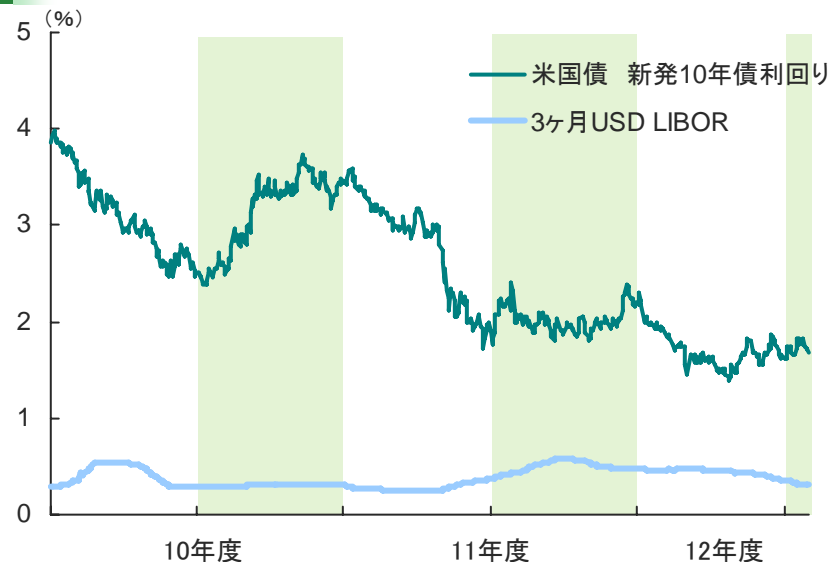
(億円)	11年度	12年度 上期	前年 同期比
	市場営業部門粗利益	3,193	2,017

内外金利動向

日本円



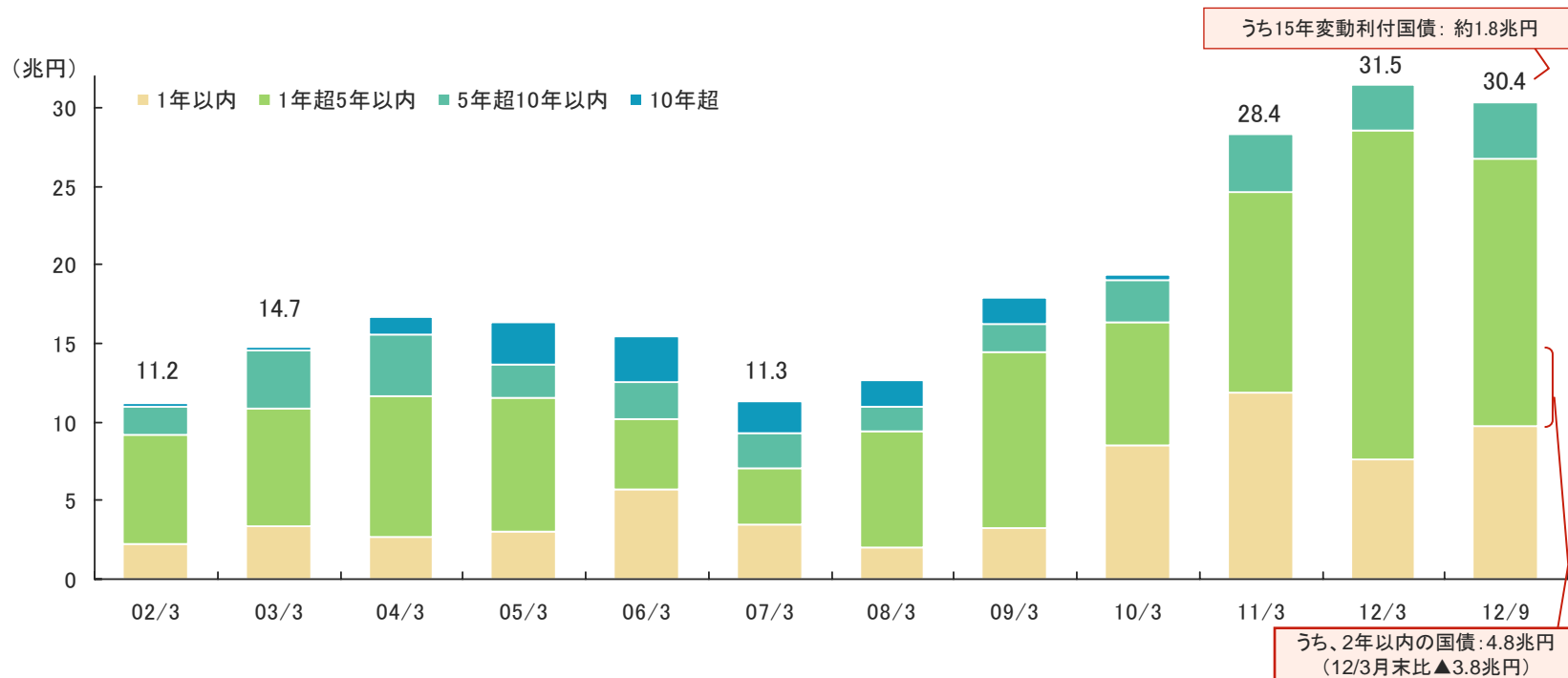
米ドル



12. 債券ポートフォリオ

円債ポートフォリオ残高

SMBC単体 (その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券 : 国債・地方債・社債の合計)



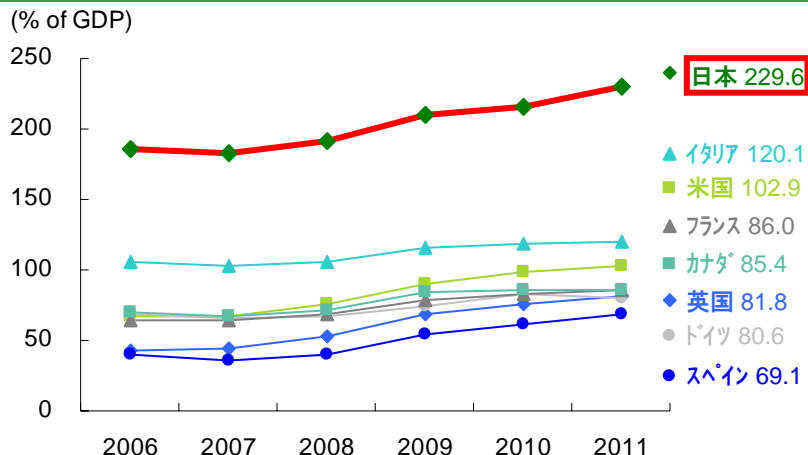
平均 デュレーション (年)*1	2.7	3.6	3.4	2.3	1.5	1.7	2.4	1.8	1.1	1.4	1.9	2.1
評価損益 (億円)*2	376	1,087	▲1,019	77	▲2,822	▲1,514	▲1,295	▲12	1,161	719	1,044	1,043

*1 ヘッジ会計適用分・満期保有分を除く、私募債を含まず。15年変動利付国債のデュレーションはゼロで計算(02/3月末は国債ポートフォリオのデュレーション)

*2 09/3月末以降、15年変動利付国債は合理的な見積り価額を用いて評価

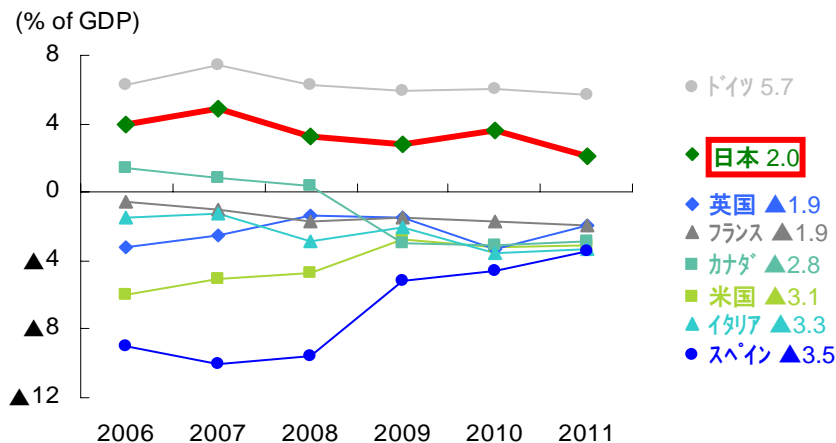
13. 「JGB保有リスク」に関する論点

政府債務残高



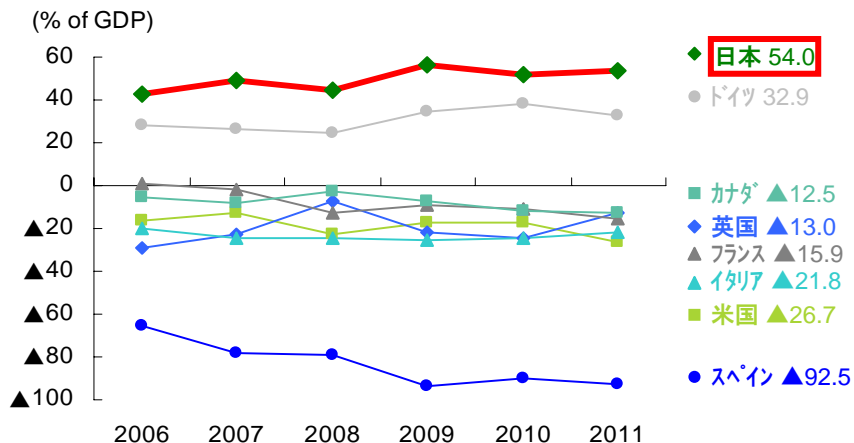
出所: IMF "World Economic Outlook, October 2012". 2011年の日本、米国は予測値

経常収支



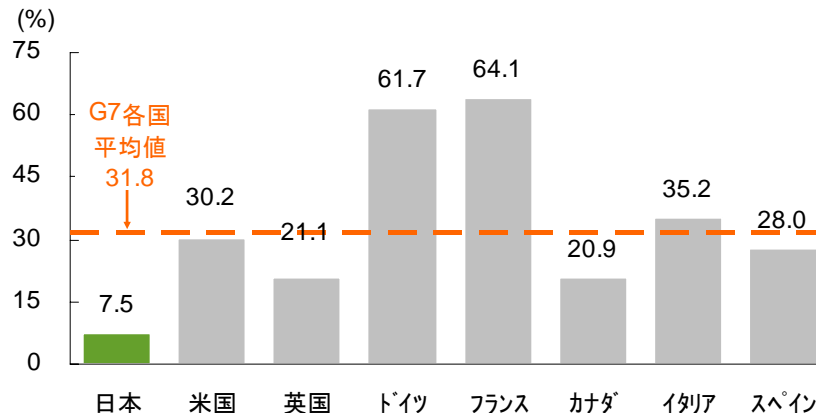
出所: IMF "World Economic Outlook, October 2012"

対外資産負債残高



出所: IMF.Stat

非居住者による国債保有比率(2012年)



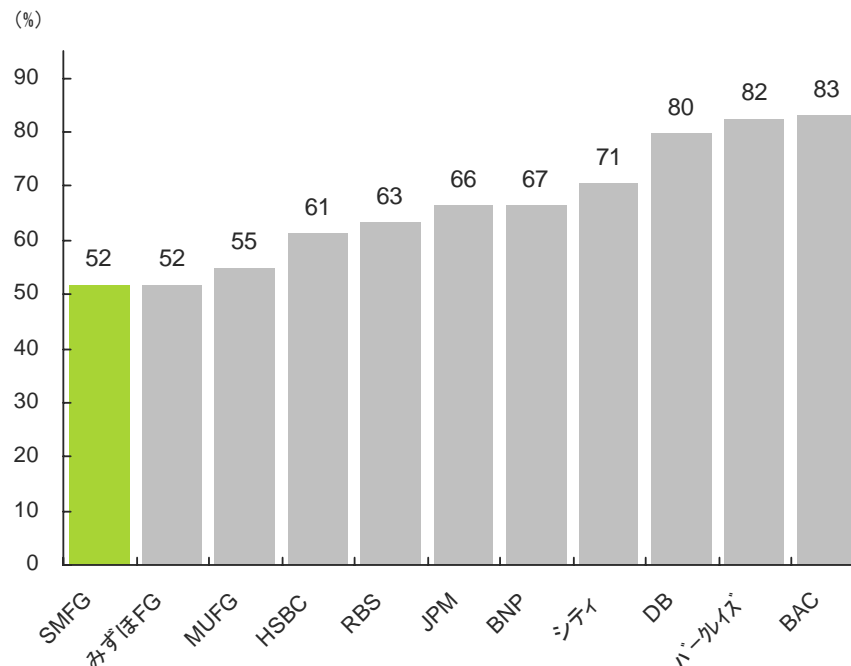
出所: IMF "October 2012 Fiscal Monitor"

14. 経費

経費の推移^{*1}

	(億円)	11年度		12年度	
		上期		上期	予想
SMBC 単体	経費	▲3,546	▲7,195	▲3,580	▲7,200
	経费率	43.3%	46.9%	45.5%	48.3%
SMFG 連結	経費 ^{*2}	▲6,774	▲13,884	▲7,097	
	経费率	51.2%	53.5%	51.7%	

連結経费率の国内外主要行比較^{*3}



(社)企業情報化協会のIT賞受賞(平成24年度、第30回)

ITマネジメント賞

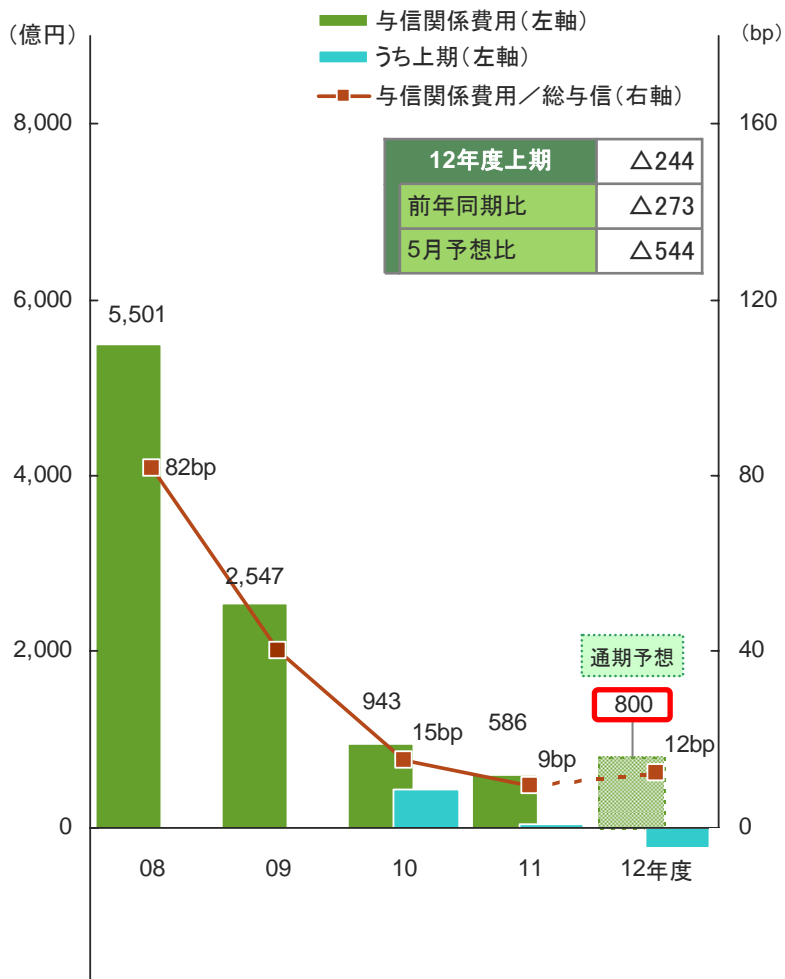


^{*1} 臨時処理分を除く。 ^{*2} 連結営業経費からSMBC単体の臨時処理分を除いたもの
^{*3} 各社公表データに基づき、営業経費(邦銀は傘下銀行の臨時処理分を除く)をトップライン収益(保険契約に基づく保険金及び給付金純額を除く)で除したもの。
 SMFG、MUFG、みずほFGは2012年度上期実績、その他は2012年1-9月実績

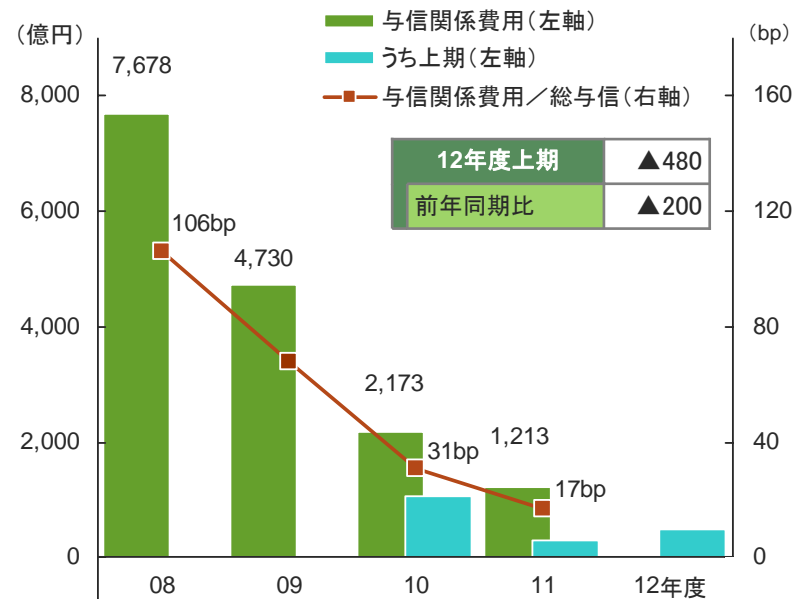
● 戦略的ITガバナンスの実現に向けた取り組み

15. クレジットコスト

SMBC単体



SMFG連結



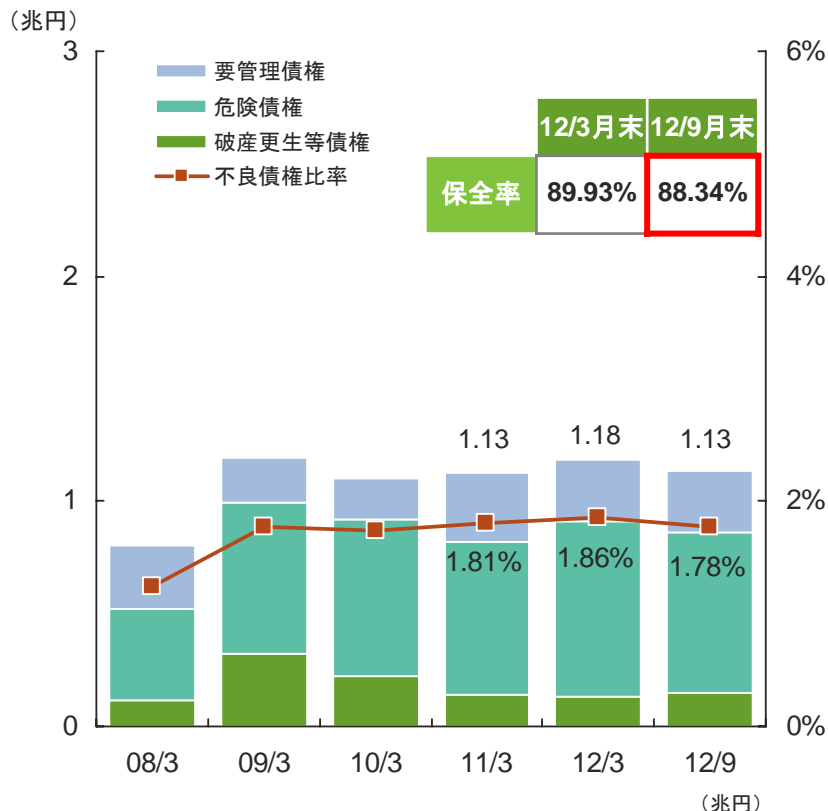
連単差の主な内訳*1

連単差	(億円)	
	12年度上期	前年同期比
連単差	▲724	▲473
SMBCコンシューマーファイナンス*2	▲200	▲200
セディナ	▲90	△50
関西アーバン銀行	▲70	△30
みなと銀行	▲30	▲20

*1 内訳は概数 *2 11/12月連結子会社化、旧プロミス

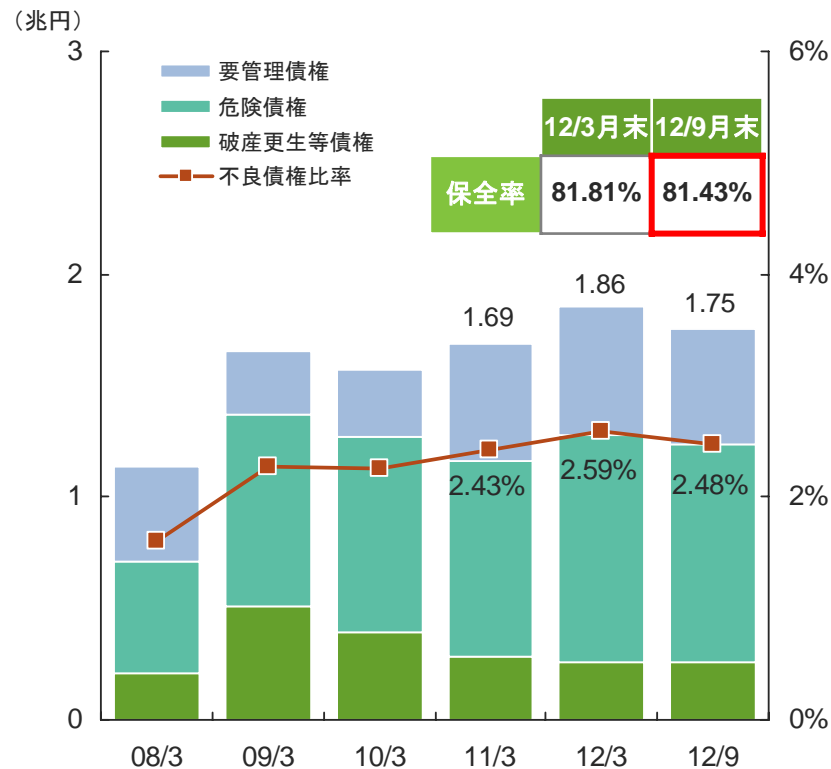
16. 不良債権残高

SMBC単体



その他 要注意先残高*1	2.6	3.7	3.7	3.1	2.8	2.1
総与信末残	65	67	63	62	64	64

SMFG連結



金融円滑化法 の影響

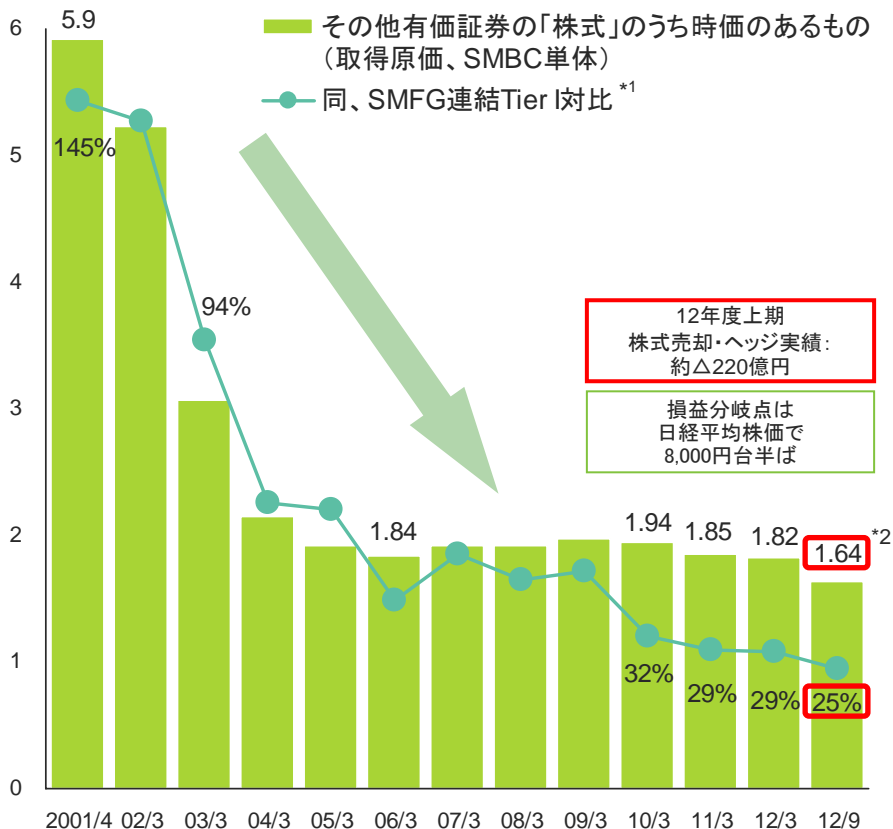
クレジットコスト減少(期末時点)試算*2	約400
開示債権減少(期末時点)試算*2	約250

*1 除く要管理先債権 *2 中小企業で条件緩和を実行した先のうち一部分について、債務者区分が1ランクダウンしたと仮定して、期末時点での影響額を試算。なお、従前比対象範囲を拡大。

17. 政策保有株式

その他有価証券の「株式」のうち時価のあるもの

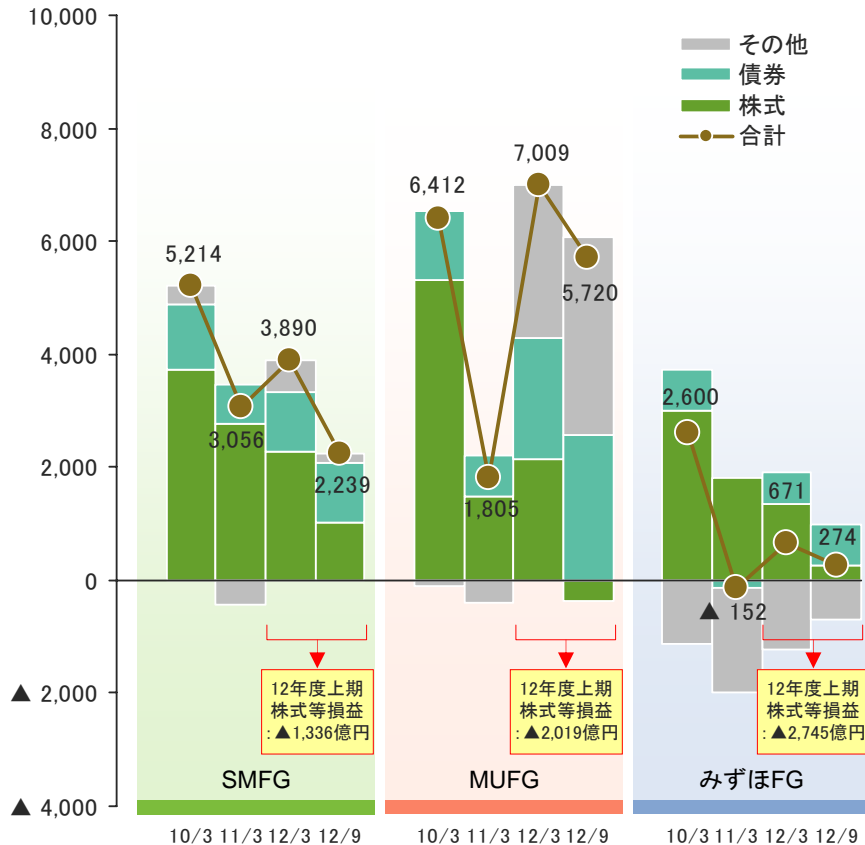
(兆円)



政策保有株式の非ヘッジ残高の連結Tier IIに対する比率を25%程度に低減

その他有価証券評価損益(他行比較^{*3})

(億円)



^{*1} 02/3月末まではSMBC連結Tier I対比 ^{*2} プロミス株式交換に伴うSMFG株式増加分を除く、非ヘッジ残高

^{*3} 各社公表資料に基づく。三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)はSMBC単体、三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)は三菱東京UFJ銀行単体及び三菱UFJ信託銀行単体の2行合算、

みずほフィナンシャルグループ(みずほFG)はみずほ銀行、みずほコーポレート銀行、みずほ信託銀行の3行合算

18. 2012年度業績予想

		11年度 実績	上期 実績	12年度 予想	12/5月 予想比	前期比
(億円)						
SMBC 単体	業務粗利益	15,325	7,867	14,900	+200	▲425
	経費*1	▲7,195	▲3,580	▲7,200	-	▲5
	<経费率>	46.9%	45.5%	48.3%	△0.7%	+1.4%
	業務純益*2	8,130	4,287	7,700	+200	▲430
	与信関係費用	▲586	244	▲800	△200	▲214
	株式等損益	▲152	▲1,336			
	経常利益	6,953	2,745	4,900	▲1,100	▲2,053
	当期純利益	4,780	2,397	4,000	+200	▲780
SMFG 連結	経常利益	9,356	4,682	8,300	▲800	▲1,056
	連単差	2,403	1,937	3,400	+300	+997
	当期純利益	5,185	3,310	5,400	+600	+215
	連単差	405	913	1,400	+400	+995

業績予想の前提*3

		12/5月 予想	12/11月 予想
3ヶ月TIBOR		0.33%	0.33%
FF金利(誘導水準)		0.00~ 0.25%	0.00~ 0.25%
為替 相場	(円/米ドル)	80	80
	(円/ユーロ)	100	100

普通株式1株当たり情報

	12年度 <12/11月予想>	12/5月 予想比
(円/株)		
連結当期純利益	398.84	+44.32
年間配当	100	-

*1 臨時処理分を除く *2 一般貸倒引当金繰入前

*3 (参考) 日経平均株価: 11年度実績 10,083.56円(12/3月末のスポット時価)、12年度上期実績8,870.16円(12/9月末のスポット時価)、

名目GDP成長率: 11年度実績 ▲2.0%、12年度予想(日本総合研究所の予想値) 12年5月15日時点: +0.8%、12年11月14日時点: ▲0.1%

1. 中期経営計画における戦略施策の進捗状況

戦略事業領域		業務戦略		
		グローバル展開	銀証連携	その他
1	個人向け金融 コンサルティングビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムEXIMBANKに対する個人業務支援継続 海外における富裕層ビジネスの立ち上げ検討推進 	<ul style="list-style-type: none"> 証券仲介等における連携の更なる強化 銀証一体口座「バンク&トレード」の開始 	<ul style="list-style-type: none"> 法人オーナー・地権者ビジネスの強化 SMBCコンシューマーファイナンス(旧プロミス)完全子会社化等によるコンシューマーファイナンス事業の強化
2	法人向け トータルソリューション ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> グレーターチャイナ地域の日系企業取引に関する内外一体運営強化 豪亜地域マルチナショナル企業のカバレッジ体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> SMBC日興証券のホールセール業務のカバレッジ、機能強化 	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題等への取組を評価して貸出条件設定を行う評価型融資の導入
3	アジアを含む新興国 における商業銀行業務	<ul style="list-style-type: none"> 新興国のネットワーク拡充、アセット・人員の積極投入 グローバルコリア営業部設置 トレードファイナンス・インフラファイナンスの強化 	<ul style="list-style-type: none"> 銀行・証券の海外拠点での連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> RBSの航空機リース事業の共同買収
4	証券・投資銀行業務	<ul style="list-style-type: none"> Moelisとの資本・業務提携等によるM&A業務強化 日本株グローバルオファリングに対応する体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> SMBC日興証券のホールセール機能のフルライン化 	<ul style="list-style-type: none"> SMBC日興証券の経営管理体制の段階的高度化
5	非アセットビジネス (決済・アセットマネジメント 等)	<ul style="list-style-type: none"> 日系企業を中心とした決済ビジネス推進 海外アセットマネジメント会社とのアライアンス強化 	<ul style="list-style-type: none"> 信託ビジネスでの銀行・証券の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> アセットマネジメントビジネスのグループ内連携強化

2. 財務目標の進捗状況

- 中期経営計画の財務目標の早期達成が視野に

コアTier I比率(試算値)		11/3月末	12/9月末	13年度 目標値
	規制完全実施時基準	6%台前半	7%台半ば	8%程度
参考	規制導入時基準	8%強	9%台半ば	

		10年度 (実績)	12年度上期 (実績)	13年度 目標値
	連結当期純利益RORA	0.8%	1.2% ^{*2}	0.8%程度
参考	連結当期純利益ROE	10.4%	12.8% ^{*2}	
	連結経費率	52.5%	51.7%	50%台前半
	単体経費率	45.6%	45.5%	40%台後半
	海外収益比率 ^{*1}	23.3%	30.7%	30%程度

*1 中期経営計画期間中は、計画前提の1ドル=85円ベース *2 年率換算

3. 資本政策、株主還元

資本政策

普通株式等 Tier1 資本 (コアTier1 資本*1)

- 内部留保の蓄積により、2014年3月末時点でコアTier I比率8%程度の達成を目指す
- バーゼルⅢ導入によるリスクアセット増加影響は、2012年3月末のリスクアセット対比、10%程度に留まる見込み

その他 Tier1 資本

- バーゼルⅢ導入以降も資本算入が認められる、経過措置対象となる優先出資証券が大半
- 従って、バーゼルⅢ適格のその他Tier1証券は当面発行不要

Tier2 資本

- 経過措置対象となる劣後債務が大半
- 2012年度中は従来型の劣後債*2の発行も可能

自己株式

- SMFG保有の自己株式 : 3.8百万株*3
- SMBC保有のSMFG株式 : 56.2百万株*3

株主還元

- 12年度配当予想: 100円
- 連結配当性向20%超(11年度: 26.8%、12年度予想: 26.1%)

	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度 予想
1株当たり 配当金額 (円)*4,5	120	90	100	100	100	100
連結配当 性向(円)*4	20.5%	-	46.8%	30.0%	26.8%	26.1%
1株当たり 純資産*5 (円、期末)	4,245.46	2,790.27	3,391.75	3,533.47	3,856.37	
ROE*6	12.3%	-	7.5%	9.9%	10.4%	

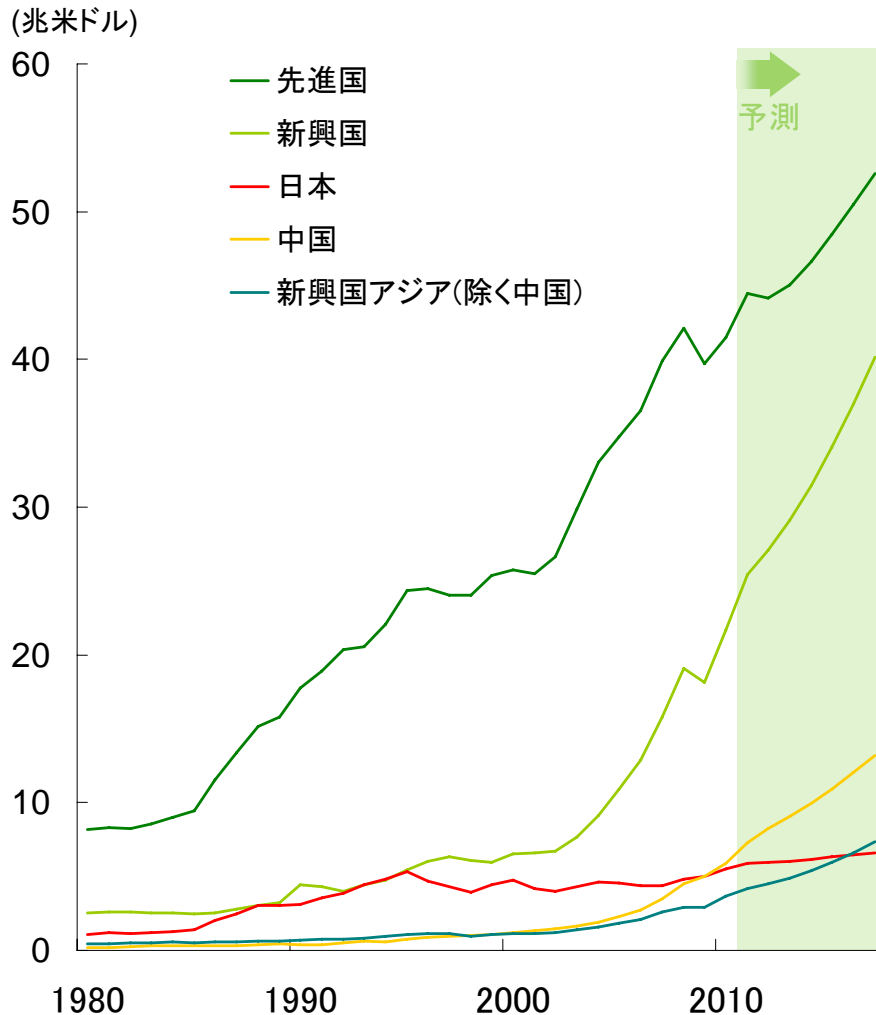
13年度中に任意償還日が到来する優先出資証券

	発行時期	発行総額	配当率*7	任意償還*8	ステップ アップ
SMFG Preferred Capital USD 2 Limited	2008年5月	1,800百万米ドル	8.75%	2013年7月 以降	なし
SMFG Preferred Capital JPY 2 Limited					
シリーズD	2008年12月	1,452億円	4.76%	2014年1月 以降	なし
シリーズG	2009年1月	1,257億円	4.65%	2014年1月 以降	なし

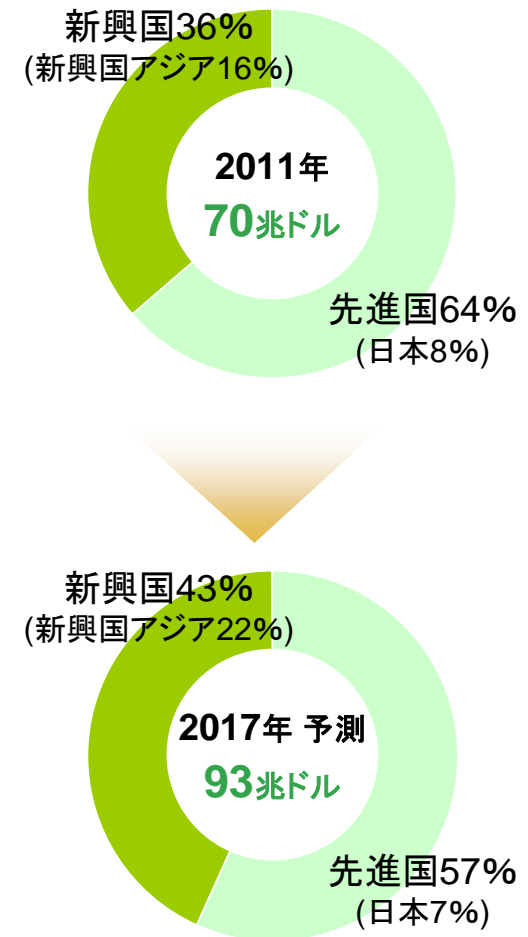
*1 バーゼルⅢの普通株式等Tier1資本のこと *2 バーゼルⅡベースの劣後債のうち、満期一括償還型やノンコール期間5年以上でステップアップ条項なしのものなど、バーゼルⅢにおいて経過措置の対象となるもの
*3 2012年4月1日付のプロミス完全子会社化に伴う株式交換反映後 *4 普通株式のみ *5 2009年1月4日付で実施した株式分割(1株につき100株の割合をもって分割)が07年度期首に行われたと仮定した場合の計数を記載
*6 株主資本ベース *7 SMFG Preferred Capital JPY 2 Limitedの任意償還日以降の配当率は変動配当率 *8 金融庁の事前承認を前提に、各配当支払日に任意償還可能

4. 環境認識

世界の名目GDP推移*



世界の名目GDPに占める割合*



* 出所: IMF “World Economic Outlook” (2012年10月)。世界186ヶ国、先進国35ヶ国、新興国151ヶ国、新興国アジア(除く中国)26ヶ国

5. 投資判断の基準

- 1 当社グループの戦略の方向性と合致し、リスクコントロール可能であること
- 2 十二分な投資リターン(当期純利益RORA0.8%を達成)
- 3 顧客サービス強化に繋がること
- 4 安定的な外貨ファンディングの確保

Ⅲ. グループ経営戦略

1. グループ概要*1



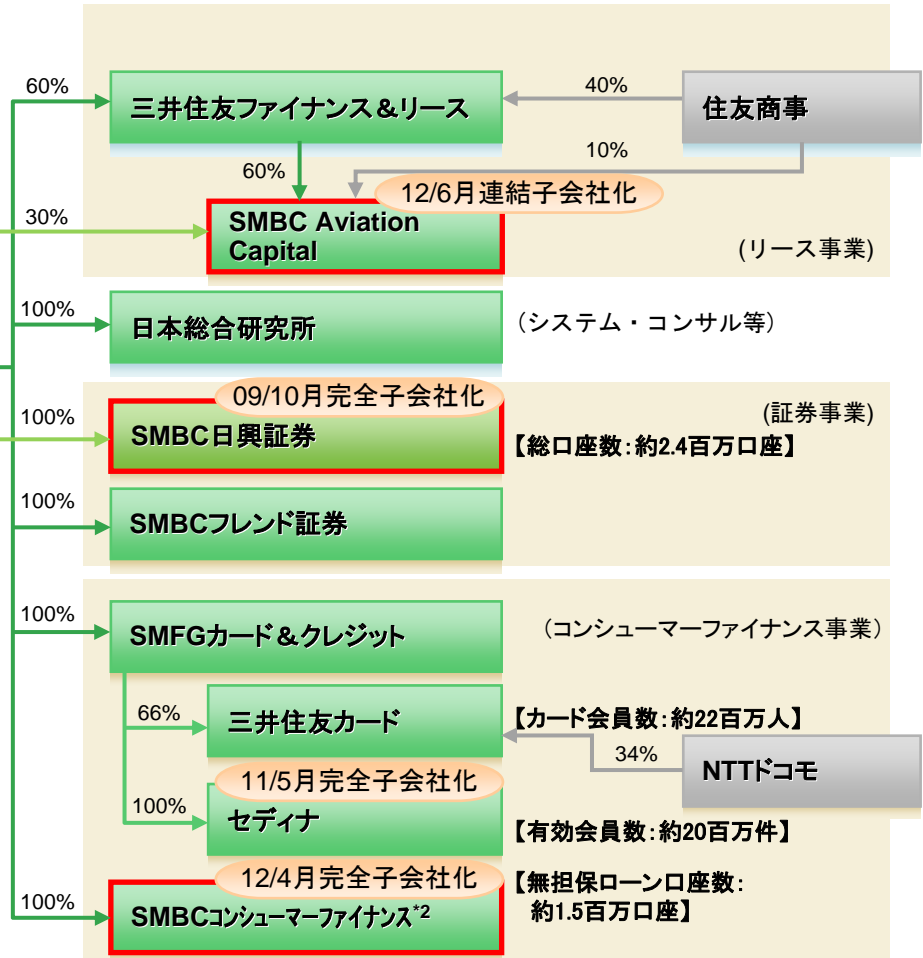
三井住友フィナンシャルグループ

連結総資産	139兆円
連結Tier I比率	13.18%



三井住友銀行

総資産	116兆円
預金	75兆円
貸出金	56兆円
個人口座数	約28百万口座
法人貸出先数	約10.5万社



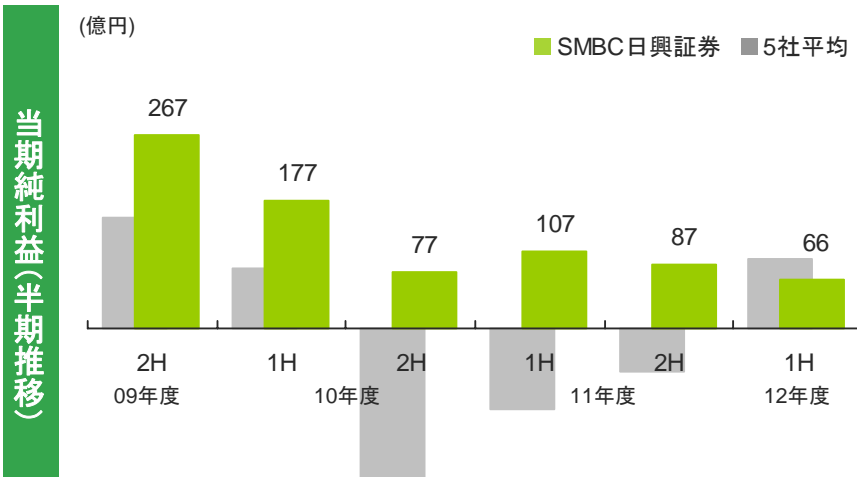
*1 12年9月末現在 *2 7月1日付でプロミスからSMBCコンシューマーファイナンスへ社名変更

2. SMBC日興証券 (1) 買収後のパフォーマンス評価

- フルライン証券会社としてのグローバルな態勢と銀証連携態勢は、計画通り構築
 - ✓リテールでは、金融商品仲介ビジネスが計画を上回るペースで拡大
 - ✓ホールセールでは、債券トレーディングが好調。また、海外拠点体制構築やMoelisとの提携により、グローバルオフリングやクロスボーダーM&A対応力を強化
- 利益面では、厳しい事業環境の中、善戦。先行投資を行いつつ、安定的に利益を計上できる体制に
- リテール業務における銀証協働の高度化を含め、SMFGとして独自性あるビジネスモデル構築が今後の課題

※ 2009年10月、買収価格5,450億円

他社比較*



当期純利益(半期推移)

SMBC日興証券の中期経営計画(10年3月策定)

- 将来的な展望(10年後の姿):
「本邦No.1であり、グローバルにも競争力を有する、質量ともに充実した総合証券会社」
- 中期経営計画の経営目標:
フルラインのサービスをお客さまに提供し、最高の信頼を得る総合証券会社を目指し、①リテール中心に既存ビジネスを持続的拡大、②ホールセール中心に新規ビジネス構築、③リスク管理、コンプライアンス体制等を整備・拡充
- 13/3期計画:純営業収益3,000億円、経常利益1,000億円
※前提:日経平均13,000円、JGB(10年) 1.6%、
99円/USD、143円/EUR、98円/AUD

* 各社公表データに基づく。5社平均は、SMBC日興証券、野村ホールディングス連結(米国会計基準、当社株主に帰属する当期純利益)、大和証券グループ本社連結、みずほ証券連結、三菱UFJ証券ホールディングス連結の平均

2. SMBC日興証券 (2) 12年度上期実績

SMBC日興証券(連結)業績

(億円)				
	上期	11年度	12年度 上期	前年比
純営業収益	1,125	2,288	1,085	▲40
販売費・一般管理費	▲910	▲1,851	▲918	▲8
経常利益	218	445	173	▲45
当期純利益*	107	194	66	▲41

ホールセール業務の実績

- シンガポールで日本株ブローカレッジ、M&Aアドバイザー業務開始(10月)
- 内部管理態勢強化

リテール業務の実績

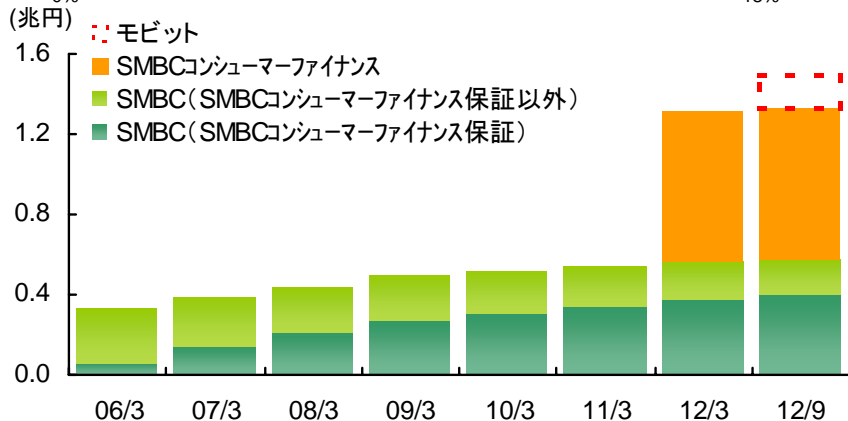
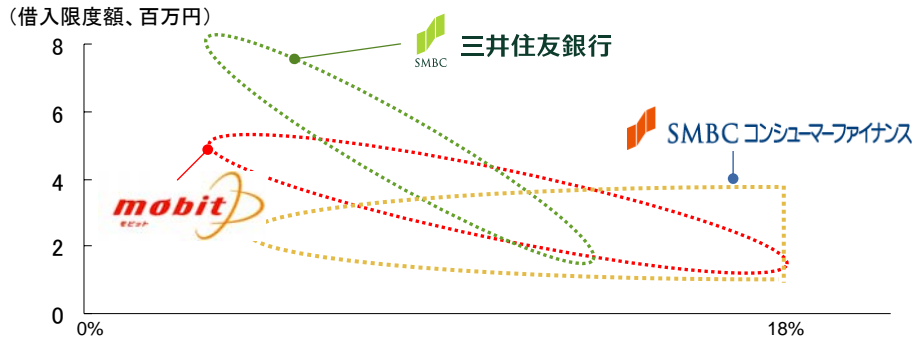
- 1-10月の個人向け復興国債販売額トップ(3,558億円、シェア41%)
- 日興JFアジア・ディスカバリー・ファンドの当初設定額(1,313億円)は、リーマンショック以降の国内投信で第1位
- 日興グラビティ・ファンドの当初設定額(515億円)は、9月業界トップ、上期第6位
- コールセンターの品質・戦略・運営表彰受賞
 - 品質保証規格「COPC® CSP規格」を5年連続認証取得(9月)
 - (社)企業情報化協会による「The Best Contact Center of The Year 2012」最優秀賞受賞、3年連続受賞は金融機関初(9月)
 - 「The 2012 Contact Center World Awards」アジア・パシフィック大会Best Outbound Campaign部門で銀賞受賞、2年連続受賞国内金融機関初(7月)
- SMBCとSMBC日興は、10月15日より、インターネットによる銀行・証券口座連携サービス「バンク&トレード」開始
- SMBCの遺言信託代理業務開始(11月)
- 内部管理態勢強化

* 2011年度は法人税率の引下げ等の税制改正影響▲48億円を含む

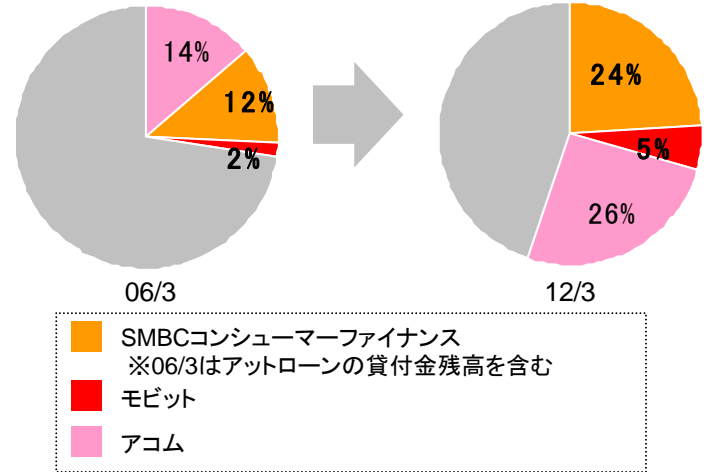
3. SMBCコンシューマーファイナンス (1) グループ戦略

上期の取組み

- プロミスを完全子会社化(4月)、SMBCコンシューマーファイナンスに社名変更(7月)
- オリックスクレジット株式をオリックスに譲渡(6月)
- SMBCCFが三菱東京UFJ銀行とモビットにおける合弁解消に合意(9月)、2013年10月を目処に、SMBCCFはモビットのローン事業を分割取得予定



SMBCCFのマーケットシェア*



SMFGグループ入りの4つの効果

- 1 グループ各社との顧客基盤共有化によるポテンシャルの拡大
- 2 保証事業の拡大に展望、海外事業は、グループの事業拡大の先兵としての位置づけ
- 3 資金調達の安定性向上
- 4 社員の士気向上

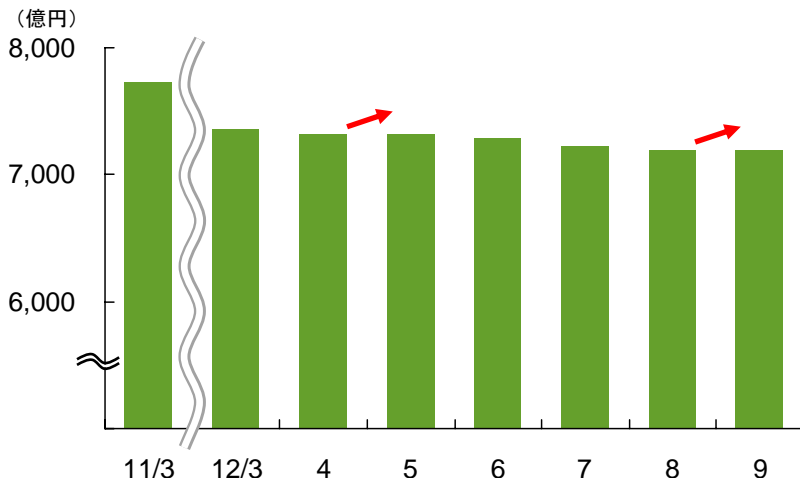
* 出所: 金融庁、各社決算資料

3. SMBCコンシューマーファイナンス (2) 2012年度上期実績

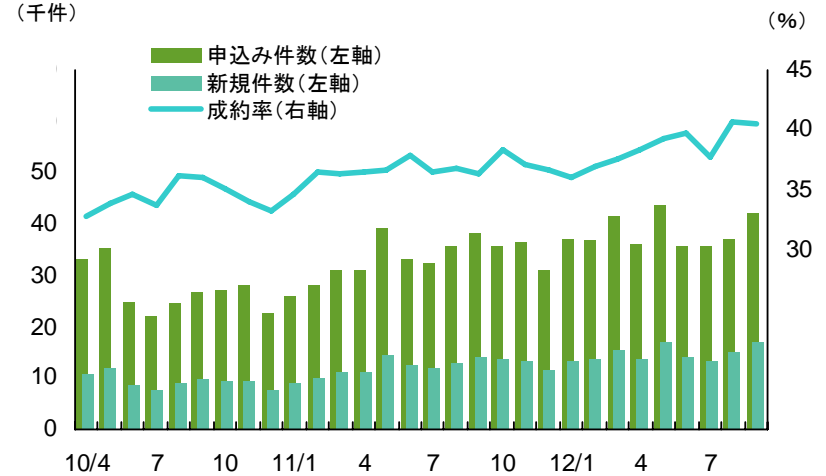
SMBCコンシューマーファイナンス(連結)業績

(億円)	上期	11年度	12年度 上期	前年比
営業収益	1,004	1,962	934	▲70
経常利益*1	▲2,057	▲1,555	320	+2,377
当期純利益*1	▲2,086	▲1,696	306	+2,392
営業貸付金残高	8,013	7,593	7,464	

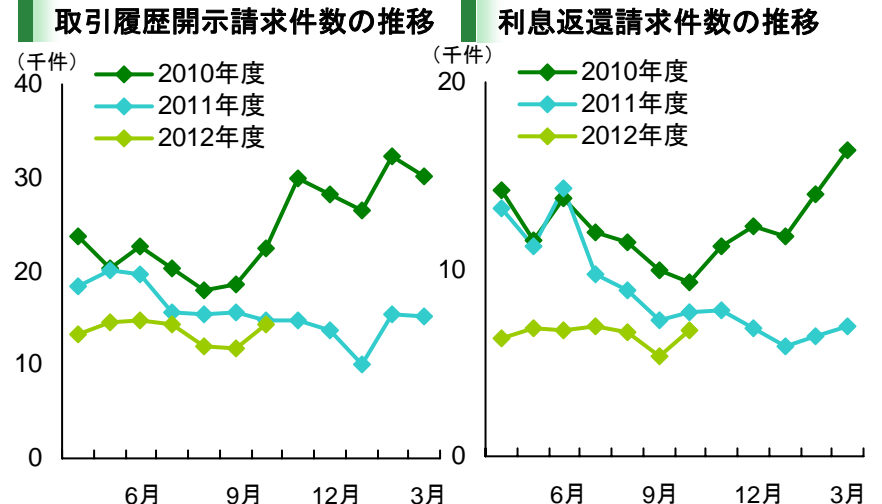
貸付金残高*2



申込・新規件数*2



取引履歴開示と利息返還請求件数*2,3



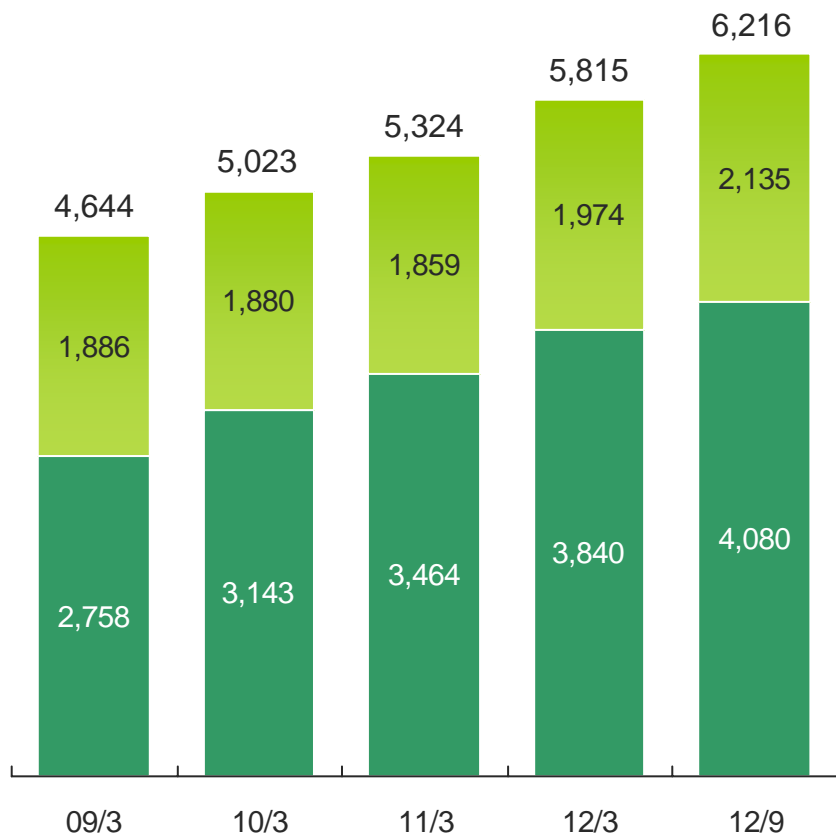
*1 11年度中間期において利息返還への抜本的な対応として利息返還関連の引当金を追加繰入 *2 SMBCコンシューマーファイナンス単体 *3 10/9月までは旧プロミス単体+旧三洋信販の単純合算

3. SMBCコンシューマーファイナンス (3) 保証事業、海外事業

保証事業

【保証残高】(億円、提携先数:183社)

- 地方銀行等向け
- SMBC向け

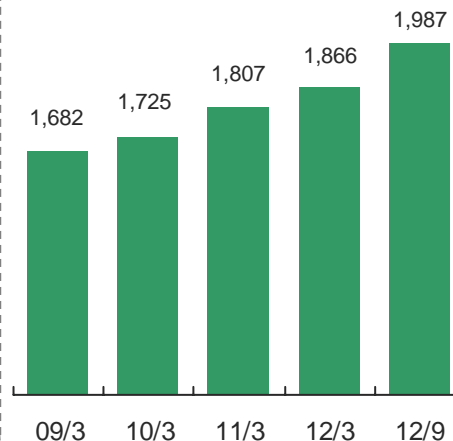


海外事業

貸付金残高(12/9月末)*1

香港	198.9億円
タイ	44.2億円
深セン	23.1億円
瀋陽	3.7億円

【貸付金残高】(百万香港ドル)



プロミス香港の業績*2

(億円)	10年度	11年度 (15ヶ月決算)	12年度 4-9月
営業収益	74	89	37
経常利益	42	52	19
当期純利益	34	43	16

*1 現地通貨を円換算 *2 連結調整前の計数。現地通貨を円換算。11年度は決算月を12月から3月に変更したため15ヶ月決算

4. SMBC Aviation Capital (1) 上期実績、ランキング

上期実績

- 12年6月1日、SMBC Aviation Capitalとして営業開始
- 12年10月、SMFL Aircraft Capital Corporation B.V.(オランダ)、SMFL・エアクラフト・キャピタル・ジャパン株式会社(日本)、Sumisho Aircraft Asset Management B.V.(オランダ)の、SMBC Aviation Capitalへの統合に向けた具体的検討を開始

2012年6-9月の主な財務数値 (百万米ドル)

総収入*1	230
当期純利益*2	60
航空機資産	7,200
純資産	1,012

ビジネスモデル

- 業界第3位プレーヤーとしての航空機バイイング・パワー
- 既存借入のうち約30億米ドルをJBICでリファイナンス、借入コストを低減
- 「Buy and sell」で収益のボラティリティを抑制

航空機リース会社 保有・管理機体数ランキング*3

	リース会社	国	機体数
1	GECAS	米国	1,755
2	ILFC	米国	1,031
	RBS AC + SMFG/住友商事グループ*4		335
3	BBAM	米国	327
4	AerCap	オランダ*	326
5	CIT Aerospace	米国	263
6	RBS AC	アイルランド*	246
	:		
17	SMFG/ 住友商事グループ*4	オランダ*	89

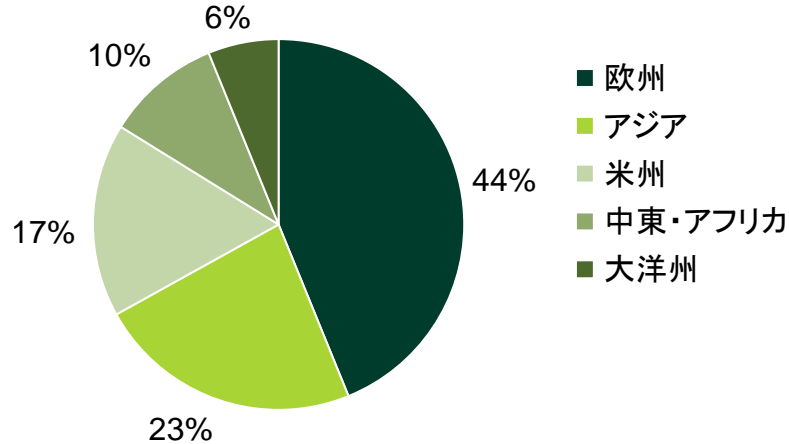
*1 リース料収入+航空機売却損益 *2 SMBC AC単独の計数であり、SMFG連結当期純利益への寄与額はこの66% *3 2011年12月31日時点(出所: Ascend)

*4 三井住友ファイナンス&リースの子会社であるSMFL Aircraft Capital Corporation B.V. と住友商事の子会社であるSumisho Aircraft Asset Management B.V.の合計

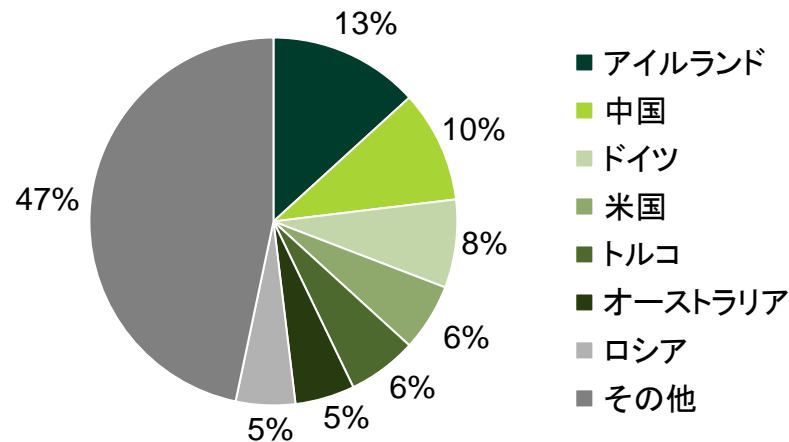
4. SMBC Aviation Capital (2) 顧客基盤、市場環境

レッシーの地域別、国別構成比*1

レッシーの地域別構成比

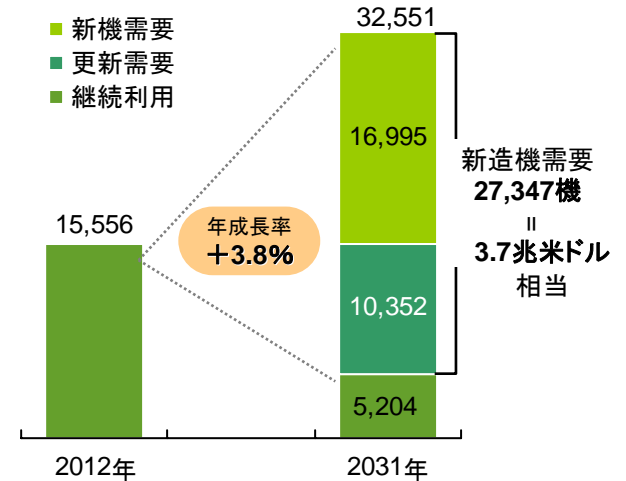


レッシーの国別構成比

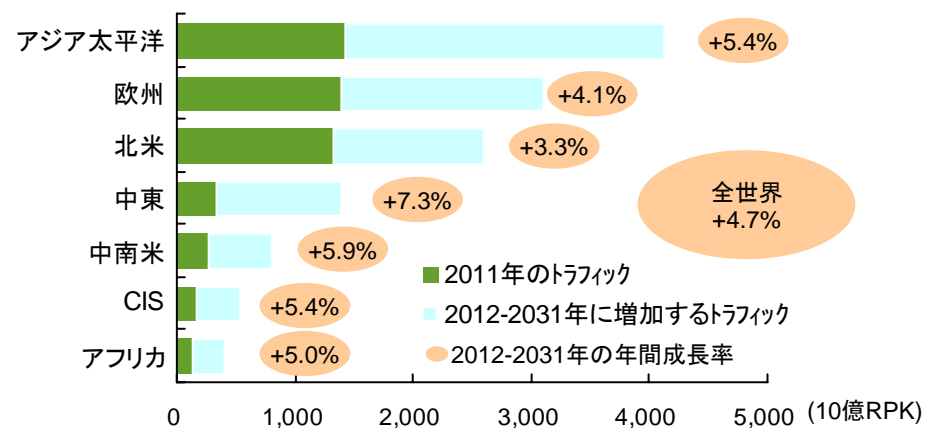


旅客機需要予測*2

(機体数)



世界の地域別航空需要予測(航空会社所在地別)*2



*1 12/9月末時点 *2 出所:エアバス 世界航空機市場予測 2012-2031

5. 経営のポイント “3つのC”

Team SMFG、Team SMBC



クロスセル (Cross-Selling)



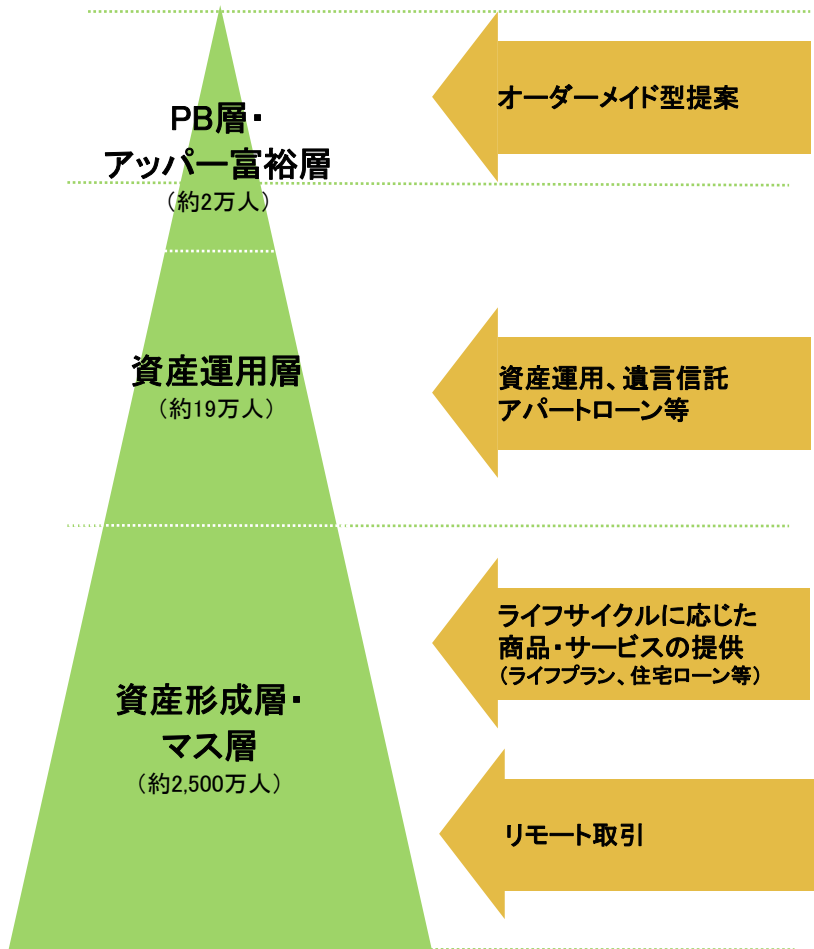
クレジット・コントロール (Credit Control)



コスト・コントロール (Cost Control)

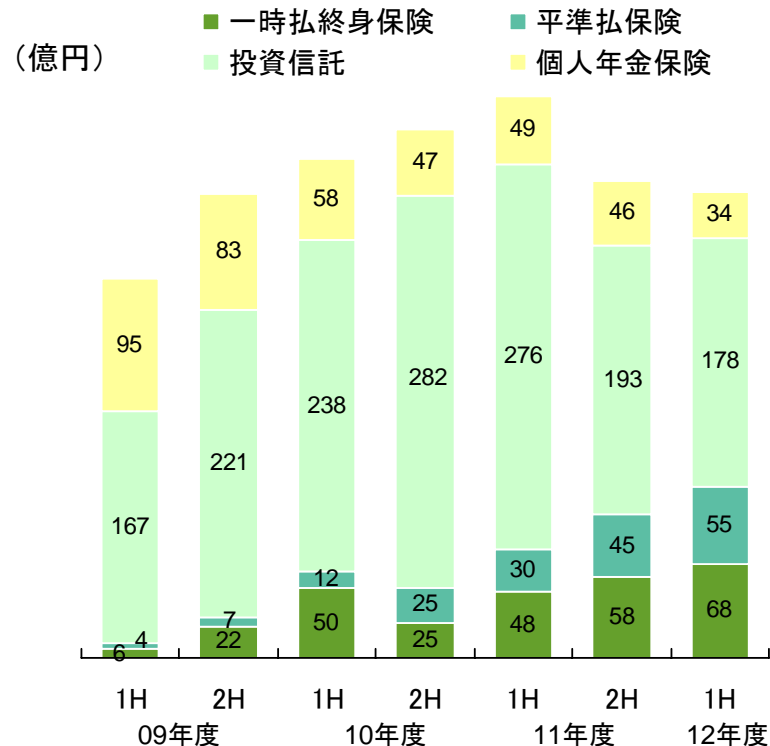
1. 個人向け金融コンサルティング (1) SMBCの個人ビジネス

セグメント別アプローチ



約2,500万人のお客さま

個人向け金融コンサルティング収益



お客さま満足度 No.1*

*“2012年投資サービス満足度No.1<対面銀行部門>”

出典: J.D. パワー アジア・パシフィック2012年日本投資サービス顧客満足度調査SM

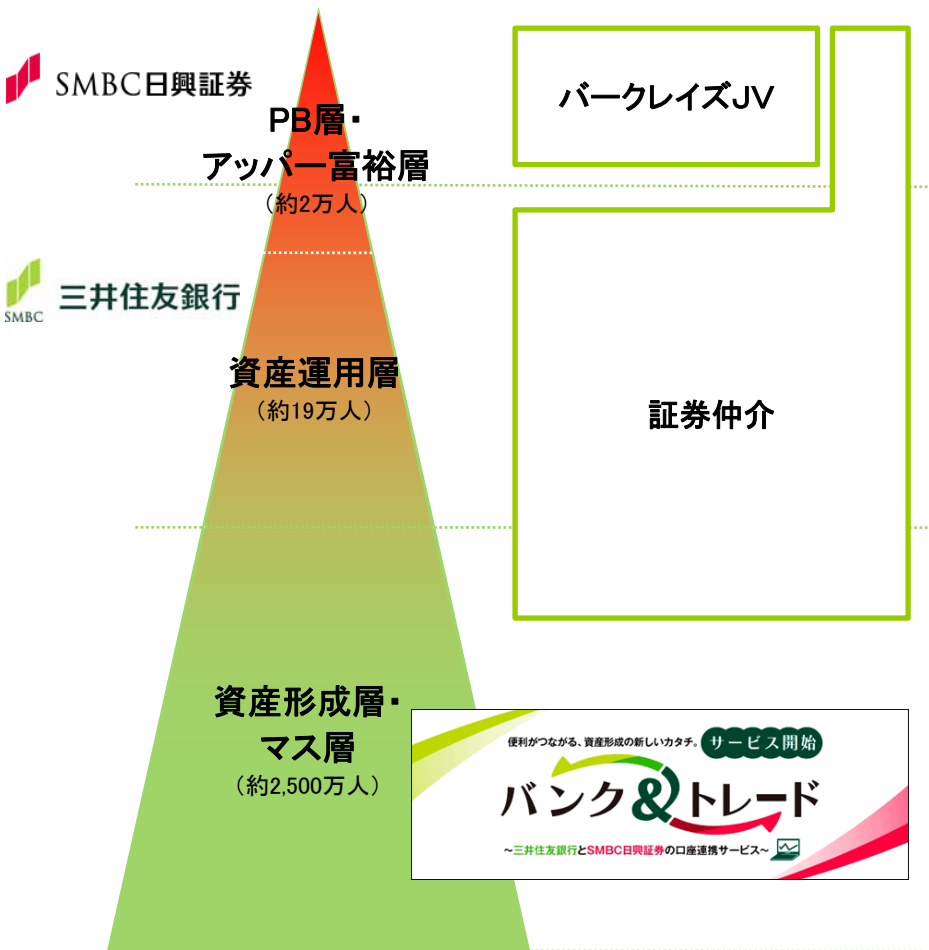
対面銀行で投資サービスを利用している顧客5,839名から回答を得た結果。

<http://japan.jdpower.com>

1. 個人向け金融コンサルティング (2) 銀証連携

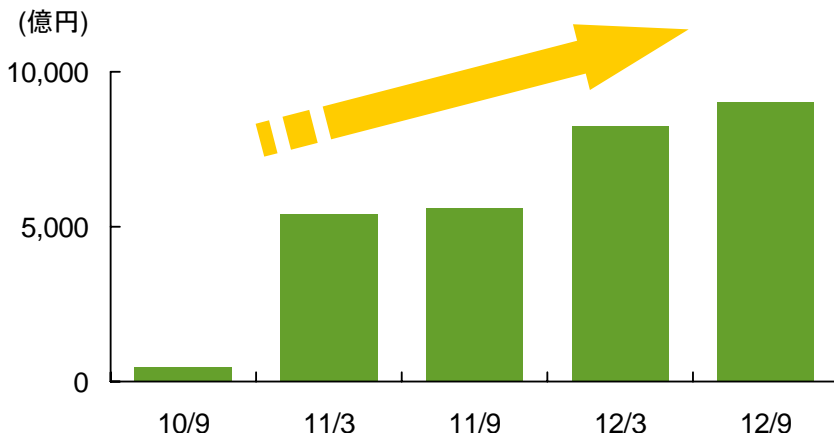
セグメント別アプローチ

主要サービス



約2,500万人のお客さま

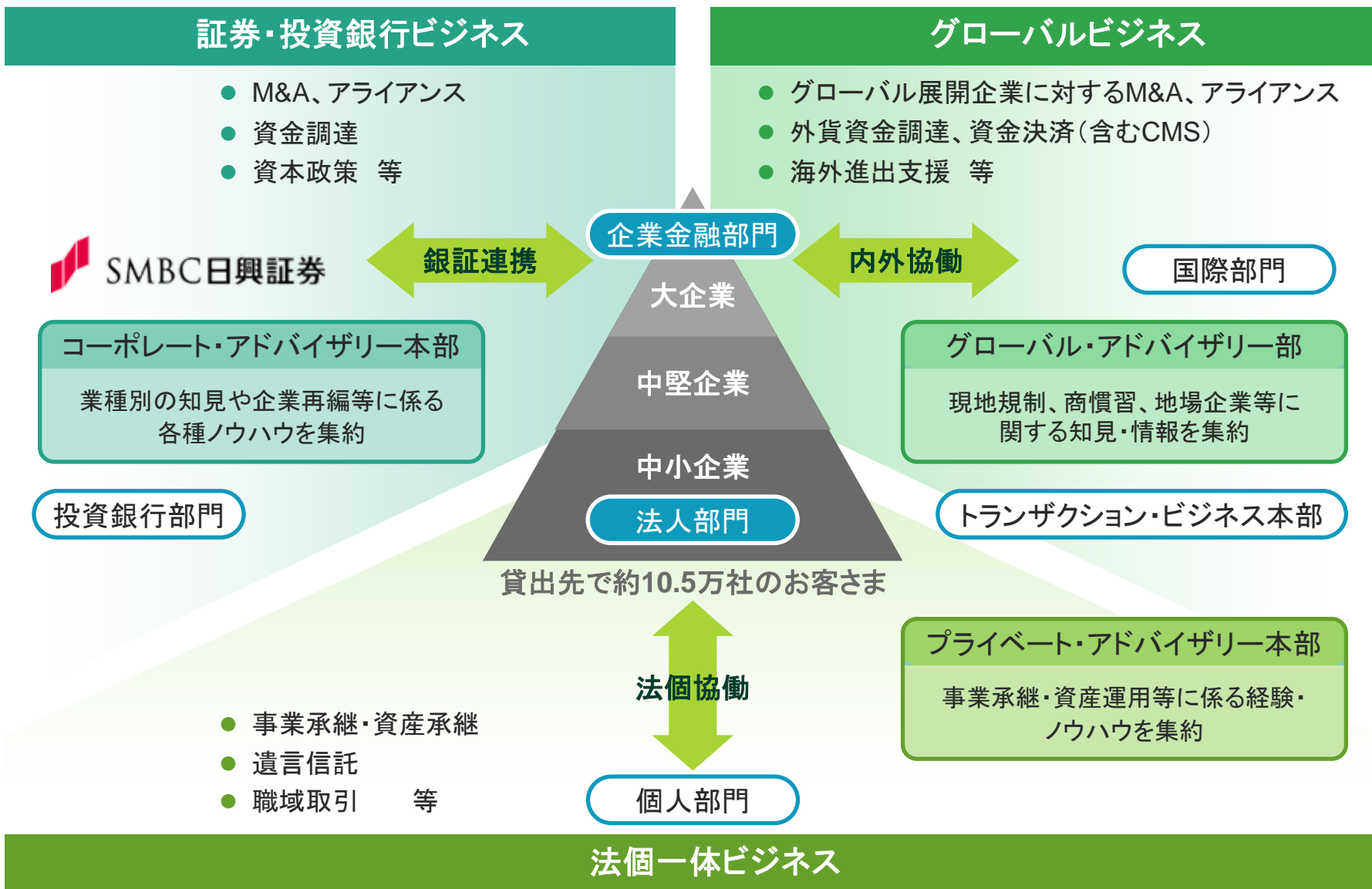
個人向け証券仲介営業資産残高



バンク&トレード

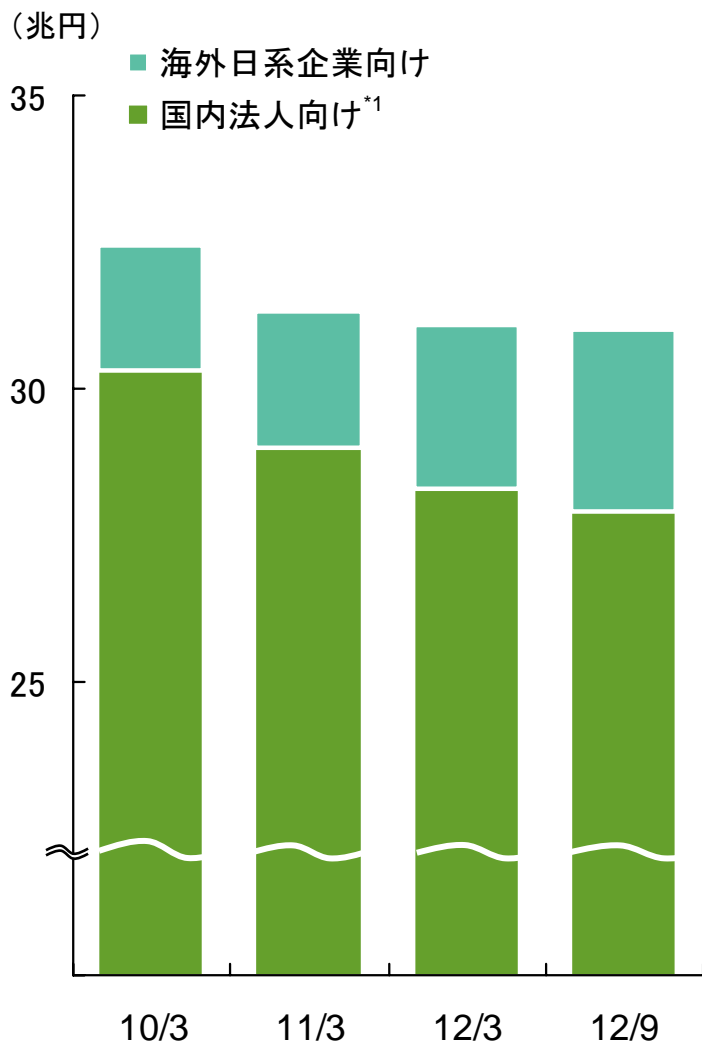
- 「SMBCダイレクト」、「日興イーजीトレード」の双方をご契約されているお客さま向けの、銀行・証券口座連携サービス。10月15日提供開始
- シングルログインとストレスフリーなネット内移動を実現
- 「日興イーजीトレード」で銀行口座と証券総合口座間の資金振替が即時可能であるほか、双方の口座残高をリアルタイムに一つの画面で照会可能

2. 法人向けトータルソリューション (1) Team SMBCでの取組み

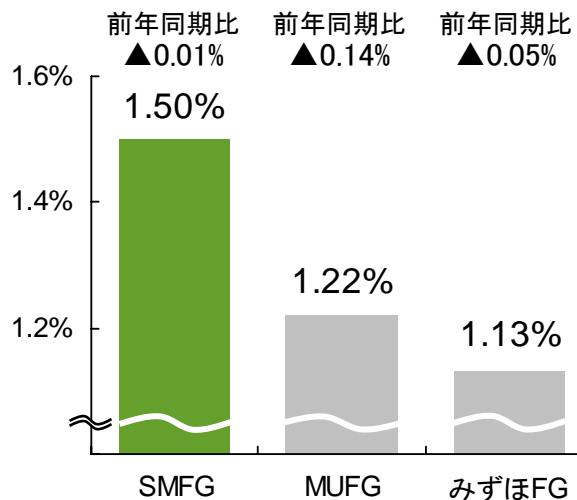


2. 法人向けトータルソリューション (2) 貸出ビジネス・内外協働

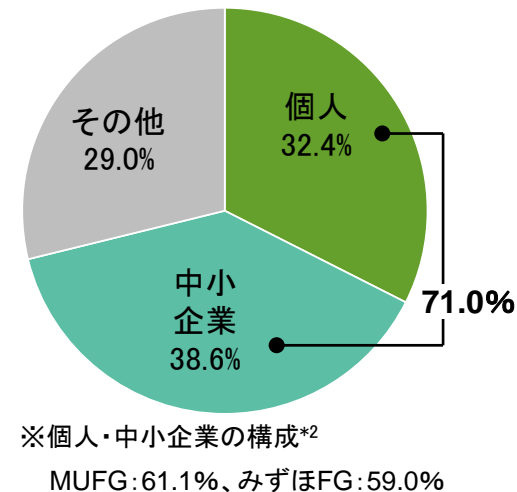
国内法人及び海外日系企業向け貸出金



国内預貸金利鞘(12年度上期)*2



SMBCの国内貸出金の構成 (12/9末)



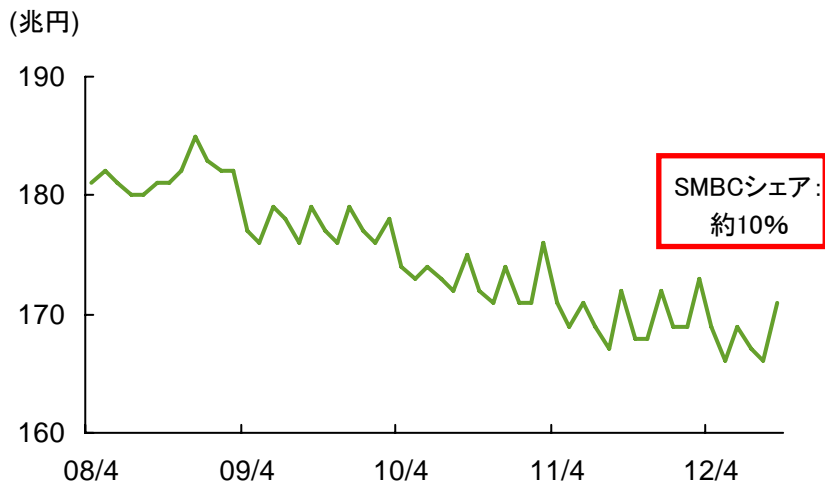
内外協働の施策

- グローバル・アドバイザリー一部が中小企業から大企業までサポート、上期のアドバイザリー件数は前年同期の約1.5倍に増加
- お客さま向け海外ビジネスセミナーを開催。上期は29回開催し、約3,000人が参加
- トランザクション・ビジネス本部が中心となり、内外決済ビジネスを強化
- グレーターチャイナ地域の日系企業取引を国内法人部門統括部署が所管
- 情報共有活発化や人材交流等、内外連携を促進する仕組みを構築

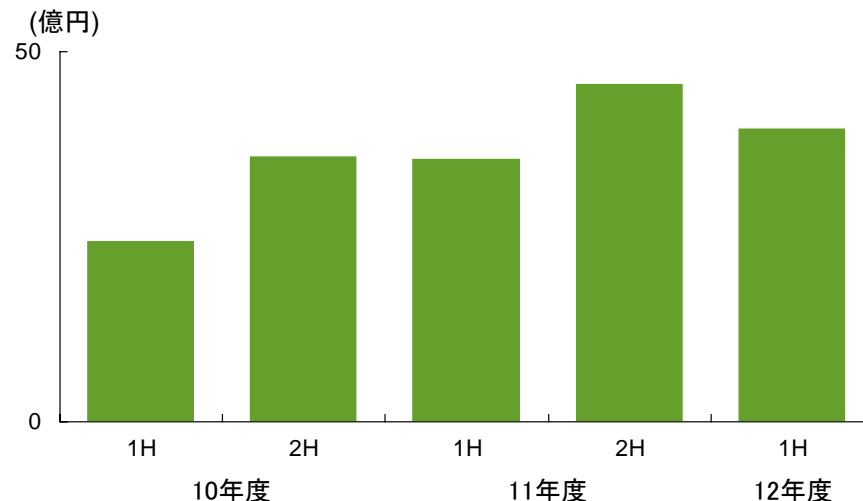
*1 法人部門と企業金融部門の合計 *2 MUFGは三菱東京UFJ銀行単体、みずほFGはみずほCBとみずほ銀行の2行合算

2. 法人向けトータルソリューション (3) 中小企業・法個一体ビジネス

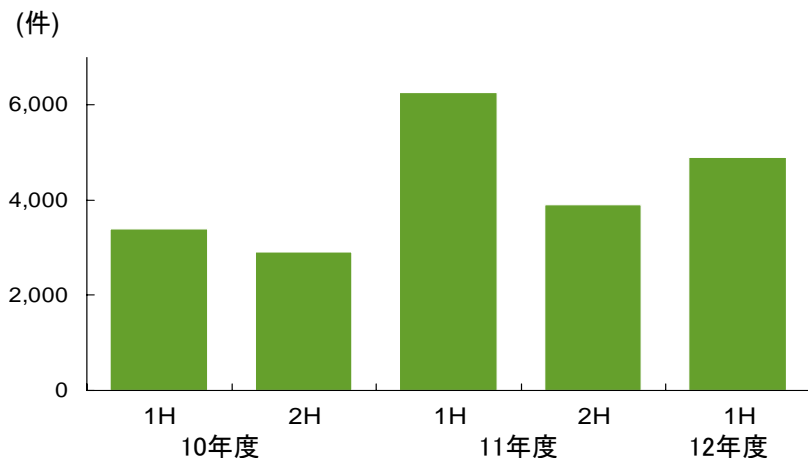
わが国の中小企業向け貸出残高推移*と当社シェア



法個協働収益



ビジネスマッチング実績



法個協働施策

- 法人オーナー取引
 - 事業承継ニーズ: M&A、事業承継支援貸金
 - 相続・資産承継ニーズ: 遺言信託、保険
 - 資産運用ニーズ: 投資信託、証券仲介、バークレイズJV
 - 借入ニーズ: 個人保有資産も考慮した柔軟な対応 等
- 職域取引
 - 確定拠出年金
 - 従業員向け各種ローン 等

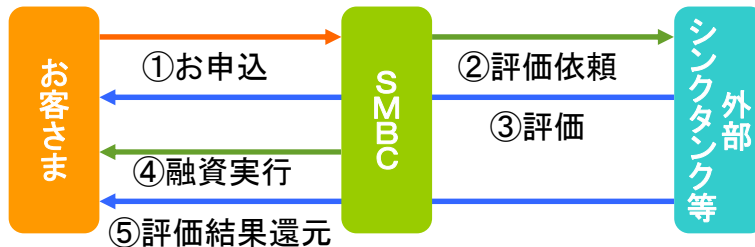
* 出所: 日本銀行「貸出先別貸出金等」

2. 法人向けトータルソリューション (4) ニーズに応じたプロダクト

環境関連資金調達ソリューション

評価型融資制度の導入

- 省資源・省エネルギーや地球温暖化等の環境問題への対応、自然災害発生時の対策、食の安全性確保など、お客様を取り巻く課題は年々多様化
- このような課題に対するお客様の先進的な取組みを評価し、融資を行う各種評価型融資を開発



【商品ラインナップ】

- SMBC環境配慮評価融資/私募債 (2008年リリース)
- SMBC環境配慮評価融資/私募債 eco バリューストック (2010年リリース)
- SMBCサステナブルビルディング評価融資/私募債 (2011年リリース)
- SMBC食・農評価融資/私募債 (2011年リリース)
- SMBC事業継続評価融資/私募債 (2011年リリース)

(累計取組実績4,000億円超)

オーダーメイドのプロダクト

ファイナンシャル・ソリューション営業部 アジア投資銀行営業部の設置(12年4月)

- 国内、アジアにおいて、プロダクトの提供機能等集約し、ノウハウの共有を進めること等により、お客様のニーズを起点とする案件捕捉力を強化
- 多様化・高度化するニーズに対し、オーダーメイドのソリューションを提供

ベンチャーファンド

NECグループとの共同ベンチャーファンド

- NECグループが有する「技術力の目利き力」と、SMBCが有する「金融ソリューション力」のシナジー発揮を目的にテクノロジー系ベンチャーファンドを設立(12年4月)
- 本邦で初めて、事業法人与金融機関が共同事業として、(独)中小企業基盤整備機構の資金を受けベンチャーファンドを組成

SMBCとSMBC日興証券の協働

IPOナビゲーター

- 2010年7月、SMBCとSMBC日興証券共同運営の会員制情報サービス提供開始
- 2012年9月末時点: 会員数500社

2. 法人向けトータルソリューション (5) 成長産業クラスター室

成長産業クラスター室

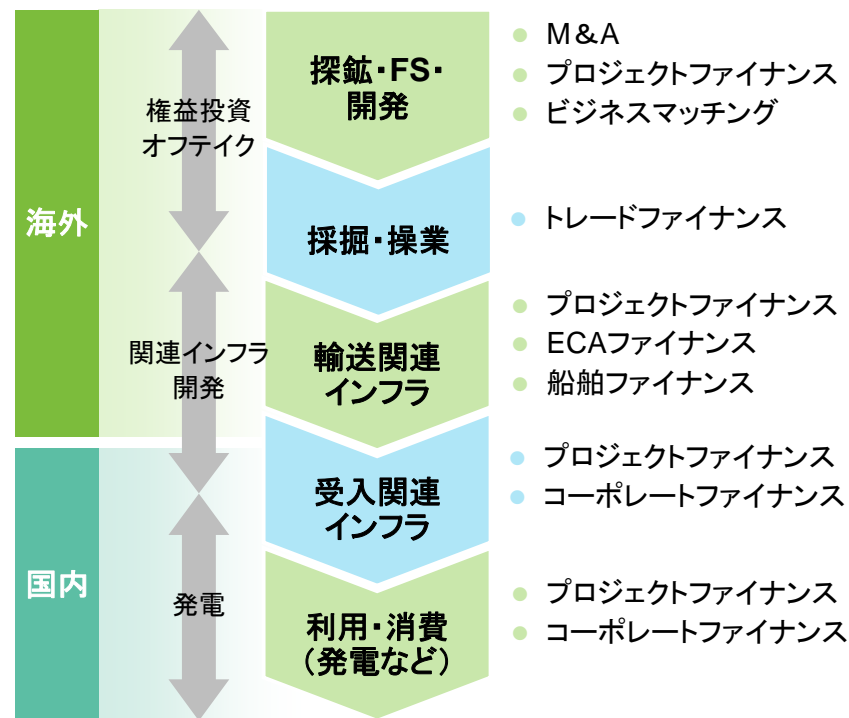
新エネルギー	再生可能エネルギー
水	上下水、再生水、海水淡水化、等
環境インフラ	エコシティ開発、交通システム、蓄電池、等
資源	石炭、天然ガス、バリューチェーン、等
排出権	温暖化対策関連ビジネス
フロンティア	新成長分野・市場

プロジェクトファイナンス、シンジケートローン

リーゲテーブル(2012年1-9月)*1

	グローバル	アジア*2	日本
プロジェクトファイナンス	3位	5位	
シンジケートローン	7位	6位	2位

例 エネルギー関連ビジネスへのアプローチ

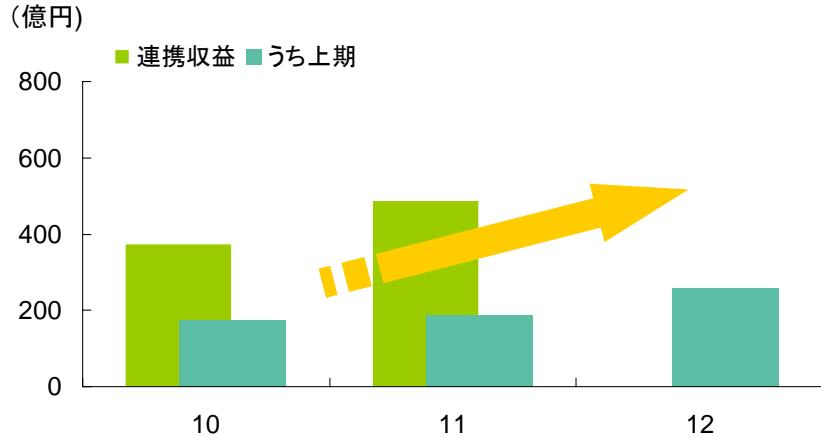


顧客リレーション, ファイナンス
コンサルティング
M&Aアドバイザー, 株式・社債引受
ファイナンスリース, オペレーティングリース

*1 出所 トムソンロイター(マンデーティッド・アレンジャー) *2 プロジェクトファイナンス: アジア大洋州、シンジケートローン: アジア(除く日本)

2. 法人向けトータルソリューション (6) 日興協働

連携収益*1

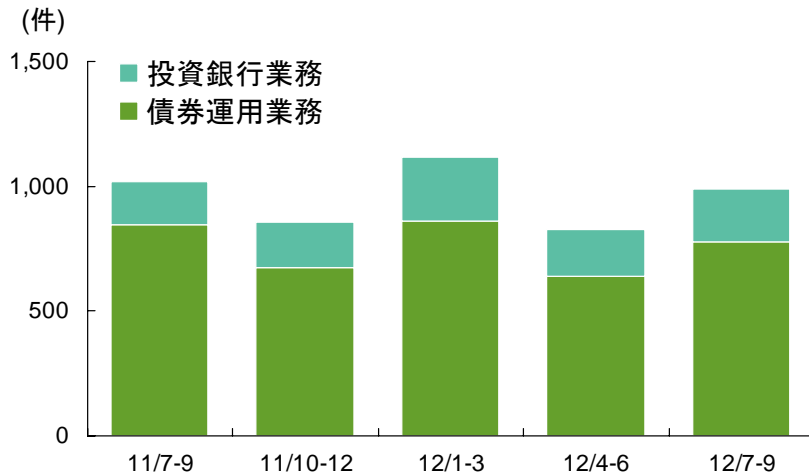


ホールセール業務関連ランキング

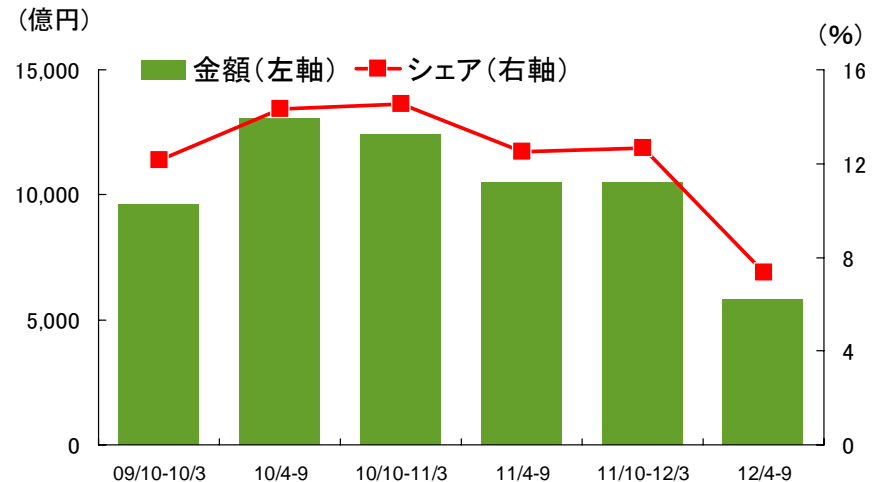
(2012年4-9月)

	順位	シェア
株式関連 (ブックランナー、引受金額)*2	5位	13.6%
円債総合 (主幹事、引受金額)*3	5位	7.3%
ファイナンシャル・アドバイザー (M&A、取引金額)*4	4位	27.6%
ファイナンシャル・アドバイザー (M&A、案件数)*4	6位	2.2%

SMBCからSMBC日興証券への紹介案件数



円債引受金額推移



*1 内部管理ベース *2 出所:トムソンロイターの情報を基にSMBC日興証券が作成(日本企業関連、グループ合算ベース) *3 出所:SMBC日興証券(事業債、財投機関連債・地方債[主幹事方式]、サムライ債)

*4 出所:トムソンロイター(日本企業関連公表案件(不動産案件除外))

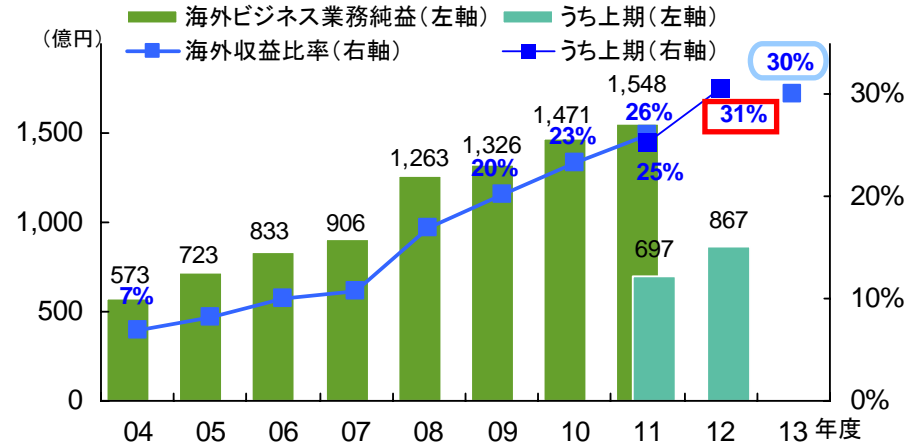
3. グローバル展開 (1) 戦略の進捗

強みと課題

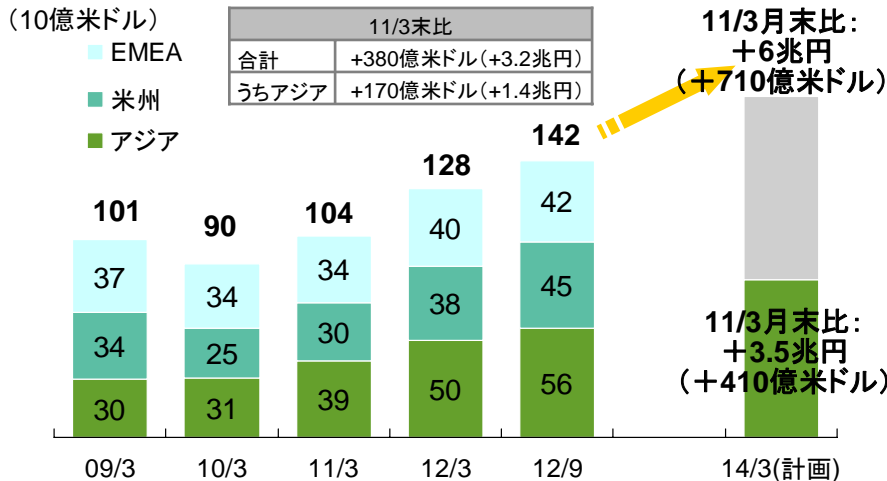
- 強み
 - ・特定プロダクトにおける高い専門性
 - ～ プロジェクト・ファイナンス、トレード・ファイナンス、CMS
 - ・迅速な意思決定 ～ 地域本部制採用
 - ・先進的な組織対応
 - ～ アジア研修室(2007)、グローバルコア営業部(2011)、国際業務開発室(2011)設置
- 課題
 - ・人材
 - ・ITシステムインフラ
 - ・外貨調達

～ 対応は着実に進展

海外ビジネス業務純益、海外収益比率推移*2



海外貸出金残高*1



グローバル人材の育成・登用

- 外国人役員／部長登用:
 - ～ 2名の常務執行役員が、米州、中国拠点で非日系取引を統率。日本国内拠点での外国人部長登用は3メガ初
- グローバル人材育成: 海外人員増強、研修制度拡充、等

(人)	03/3末	12/9末	03/3末比
ナショナルスタッフ	2,704	5,296	× 2.0倍
派遣職員	439	845	× 1.9倍
合計	3,143	6,141	× 2.0倍

*1 内部管理ベース(各期末換算レートにて換算)。SMBC、欧州三井住友銀行及び三井住友銀行(中国)の合算

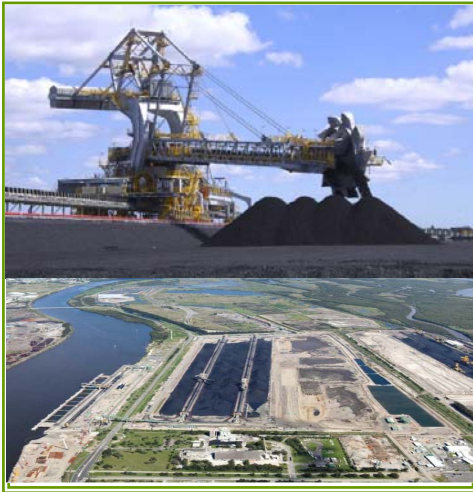
*2 内部管理ベース。SMBC及び海外主要子銀行の合計。11年度以降の海外収益比率は、中期経営計画前提の1ドル=85円ベース

3. グローバル展開 (2)-1 強みを持つプロダクツ

プロジェクトファイナンス、トレードファイナンス

- 専門性の高い部隊がマンデートの獲得に注力
- 顧客企業及び、ECAとのリレーションを活かし、非日系企業スポンサー案件にも取組

例 オーストラリア ニューカッスル石炭輸出港



SMBCの役割

- マンデーティッド・リード・アレンジャー

- ✓ 拡張工事もあり、2004年以降の数年に亘るプロジェクト
- ✓ 1期当たりのプロジェクトコストは10~20億米ドル
- ✓ BHP Billiton等、大手非日系企業がスポンサー
- ✓ 業界に知見・リレーションシップのあるナショナルスタッフ中心の専門チームが初期段階からアドバイス

例 インドネシア ワンプー水力発電所プロジェクト



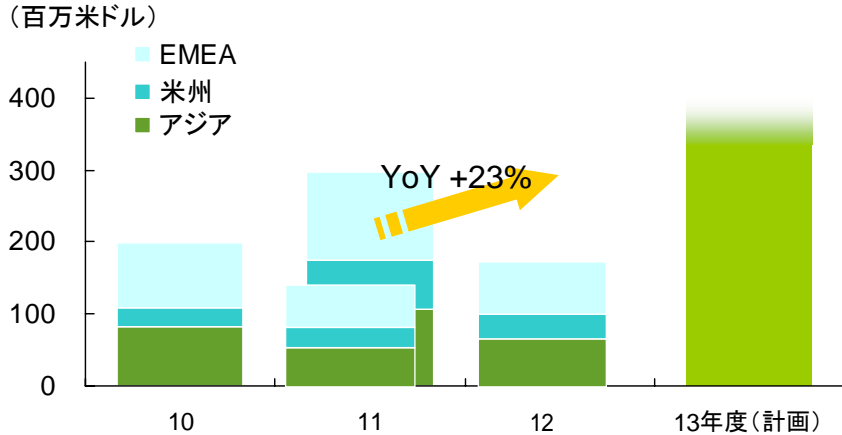
SMBCの役割

- スポンサーへのファイナンシャルアドバイザー
- 単独幹事行
- ローン期中管理や口座管理のエージェント

- ✓ プロジェクト規模: 172百万米ドル
- ✓ SMBCはプロジェクト初期段階の2009年よりアドバイザーとして参画
- ✓ ポスコエンジニアリングが建設、韓国中部発電が運営するプロジェクト
- ✓ 韓国輸出入銀行(KEXIM)との業務提携も活用し、KEXIMからの直接融資も含め、資金調達を取り纏め

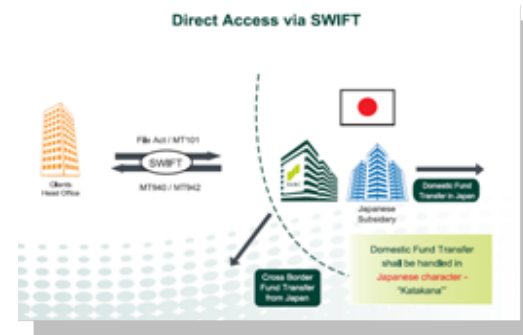
3. グローバル展開 (2)-2 強みを持つプロダクツ

トレードファイナンス関連収益



「SWIFT Bank Readiness」

- SMBCの海外9拠点において、SWIFTを利用した事業会社向け資金管理サービス提供の準備完了認定



キャッシュ・マネジメント・サービス

顧客アンケート調査(アジア・パシフィック総合ランキング)*

キャッシュ・マネジメント・サービス	大企業	4位	邦銀中、7年連続1位	目標 アジア地域 CMS 外銀トップ3
	中堅企業	4位		
	中小企業	4位		
円決済サービス	金融機関	1位	7年連続1位	

インターネットバンキング「SMAR&TS」

(Sumitomo Mitsui Advanced Report & Transfer Services)

- 法人のお客さまがSMBCの海外拠点にお持ちの口座において、インターネット経由で口座照会・資金移動が可能

インフォメーション	<ul style="list-style-type: none"> ・各拠点から還元された情報を閲覧 ・日本語、英語、タイ語、ベトナム語、韓国語、中国語、インドネシア語、マレーシア語の8ヶ国語対応
Bank Report	残高一覧、入出金、為替予約等の照会
資金移動	日本→海外、海外→日本、現地国内送金

* 出所:「ASIAMONEY」誌キャッシュ・マネジメント・サービス調査12/8月号

3. グローバル展開 (3) SMBCのアジア展開*1



12年度上期の取組み

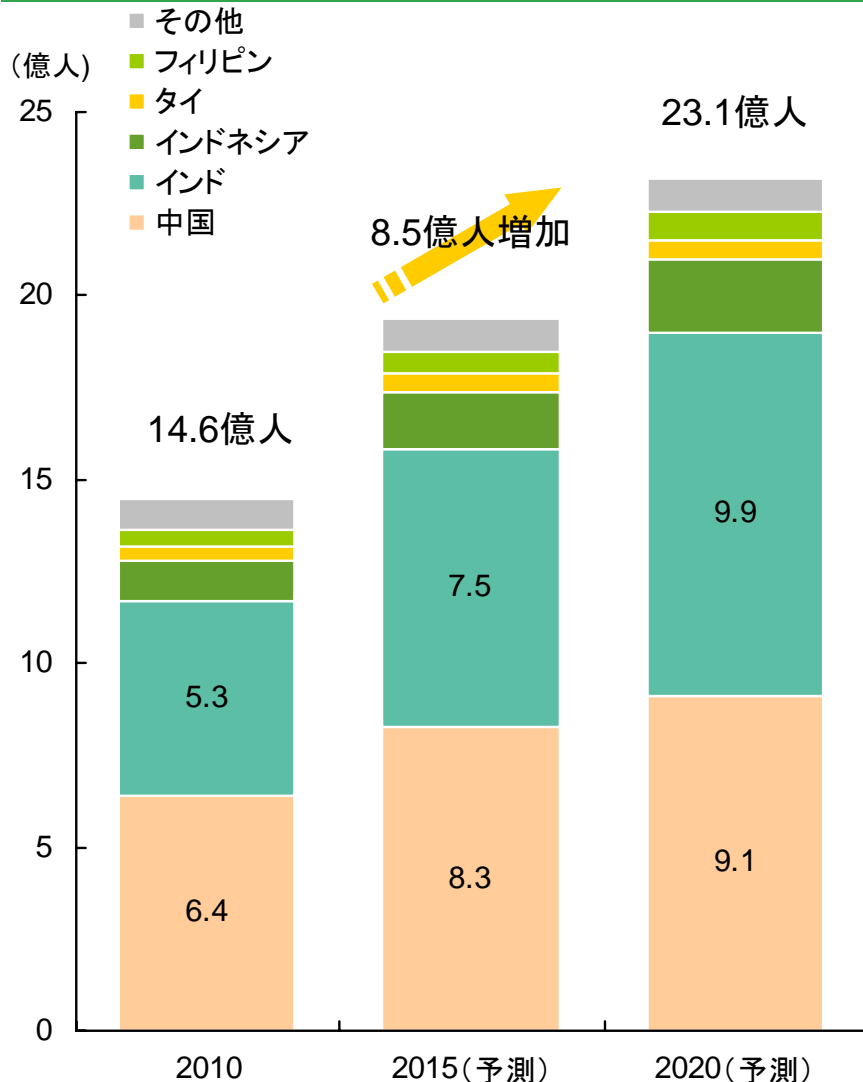
営業拠点開設	ニューヨーク支店リマ出張所 シンガポール支店ヤンゴン出張所 重慶支店*2
組織新設	アジア投資銀行営業部
資本・業務提携等	中郵基金(中国、資産運用会社) <出資等> アクレダ・バンク(カンボジア) <業務提携>
関係強化	カンポーザ銀行(ミャンマー) <技術支援等>

*1 2011年度以降に開設した拠点等を枠内に記載 *2 三井住友銀行(中国)の支店

IV. SMBCの事業戦略

3. グローバル展開 (4) アジアのオポチュニティ

アジア新興国の中間所得層見通し*1



アジア有力企業の推移*2

世界各国・地域の有力企業数

(社数)

	2004	2007	2010	2012
米国	751	659	536	524
ユーロ圏	284	306	291	284
英国	137	126	90	90
日本	316	290	270	258
中国	25	44	113	134
ASEAN4	34	30	45	53
NIES3	96	108	108	128
インド	27	34	56	61
ブラジル	15	22	33	33
ロシア	12	20	28	28
その他	303	361	430	407
合計	2,000	2,000	2,000	2,000

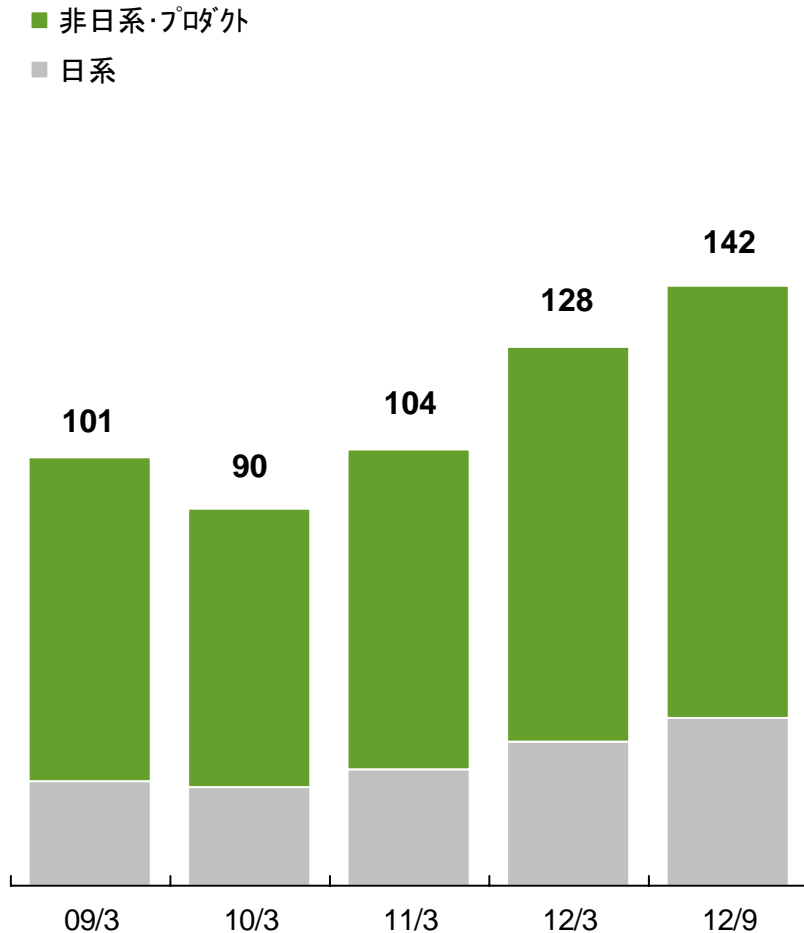
*1 出所: 経済産業省「通商白書2011」 *2 出所: Forbes「The Global 2000」(ランクインした企業2000社を集計)

Appendix

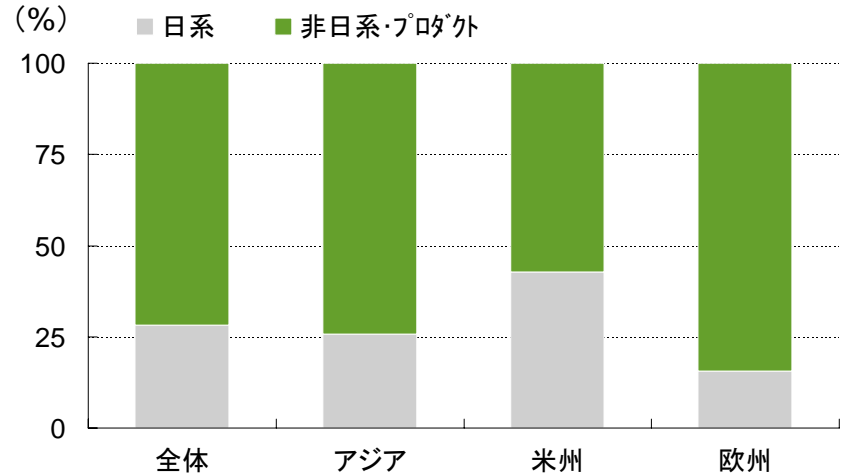
海外貸出金の顧客別構成(拠点ベース)*

全体

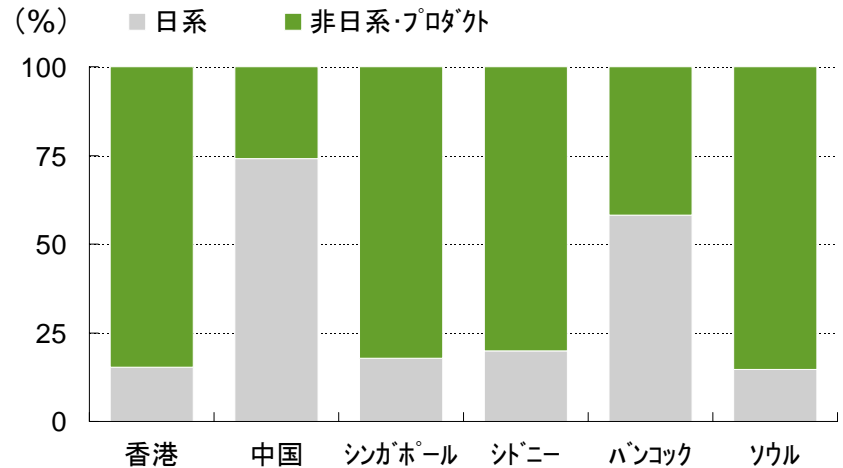
(10億米ドル)



地域別(12/9月末)



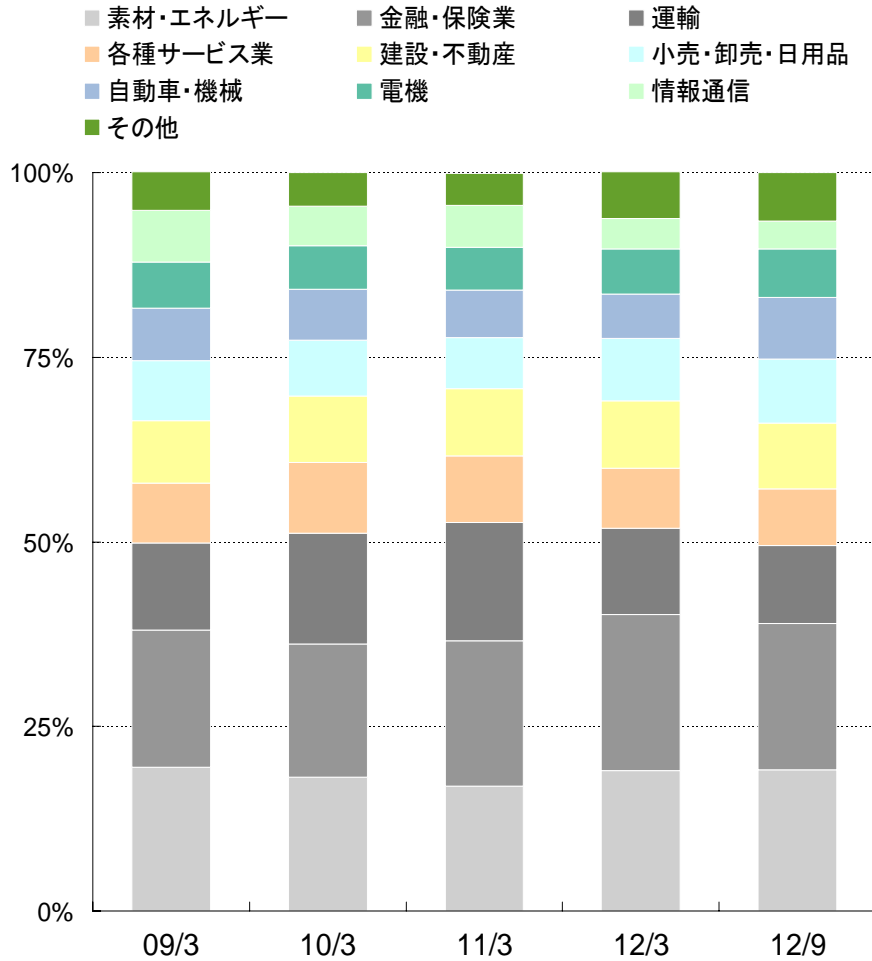
アジア主要拠点(12/9月末)



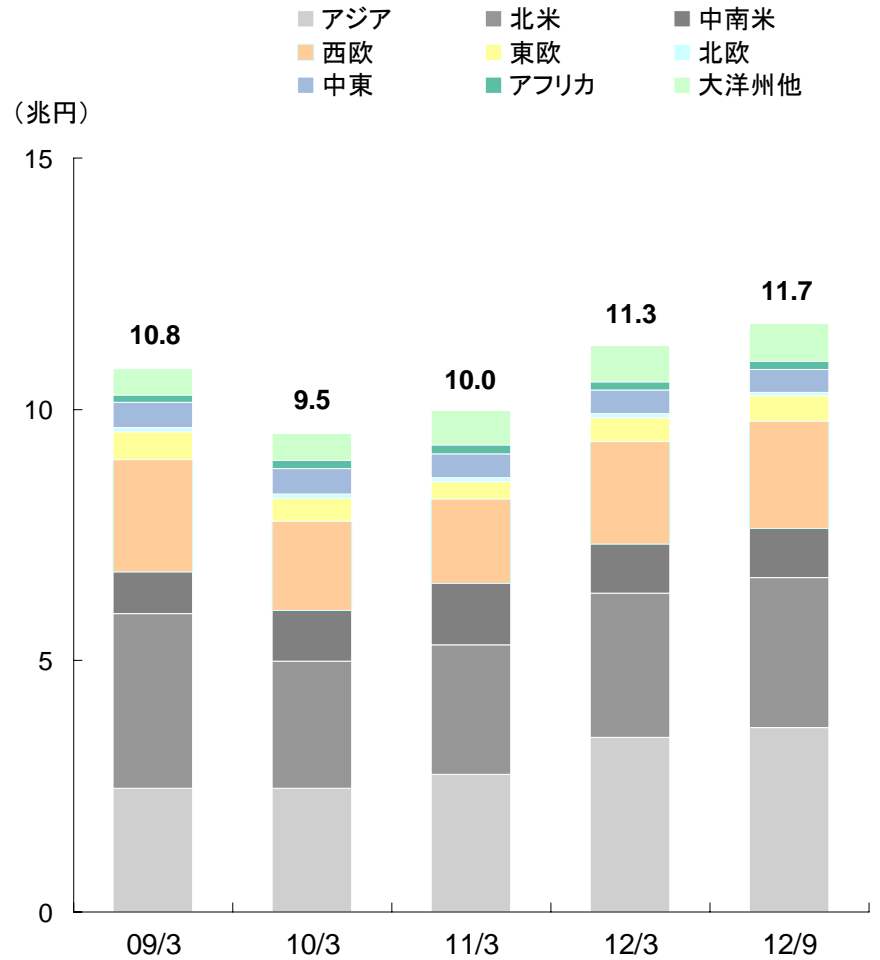
* 内部管理ベース。SMBC、欧州三井住友銀行及び三井住友銀行(中国)の合算。

海外貸出金の業種別構成、地域別残高(債務者所在国ベース)*

業種別構成



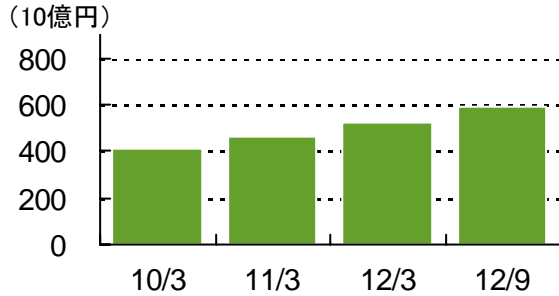
地域別残高



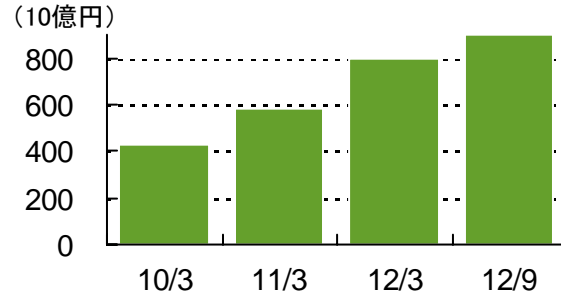
* 内部管理ベース。SMBC、欧州三井住友銀行及び三井住友銀行(中国)の合算。

アジアの主要国別貸出金残高(債務者所在国ベース)*

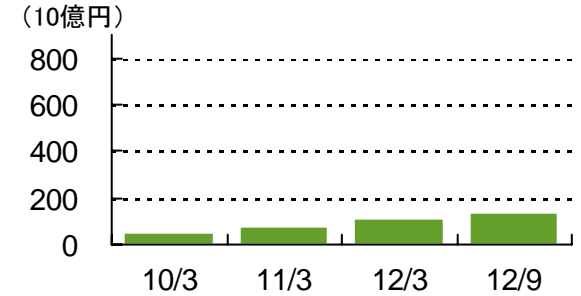
中国



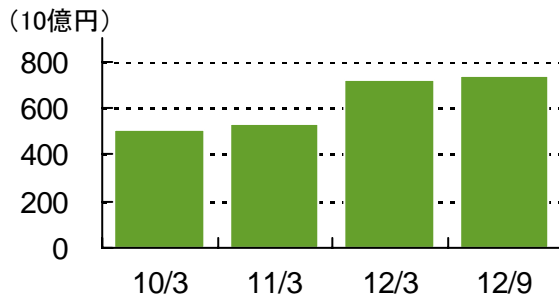
香港



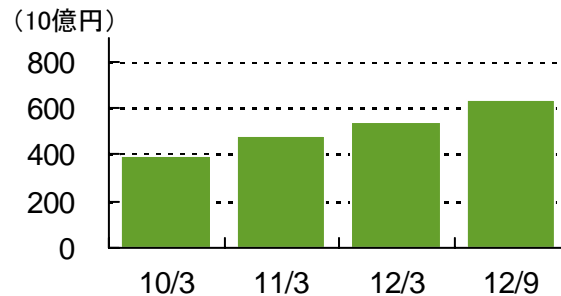
台湾



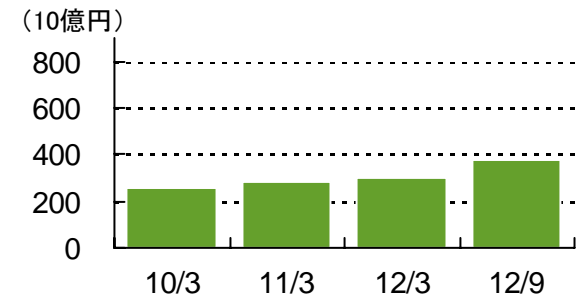
シンガポール



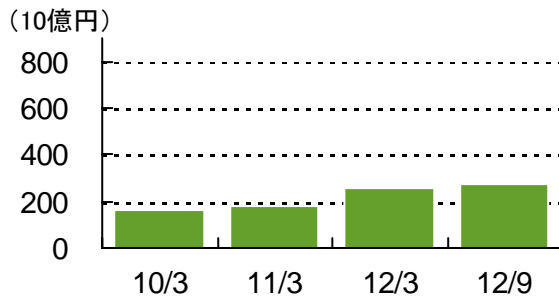
オーストラリア



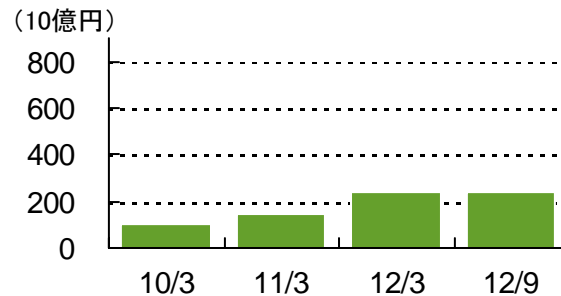
タイ



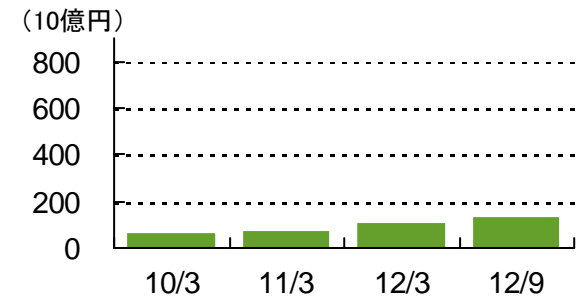
韓国



インド



インドネシア



* 内部管理ベース。SMBC、欧州三井住友銀行及び三井住友銀行(中国)の合算。各期末残高は、12/9月末の期末為替仲値で割戻して表記

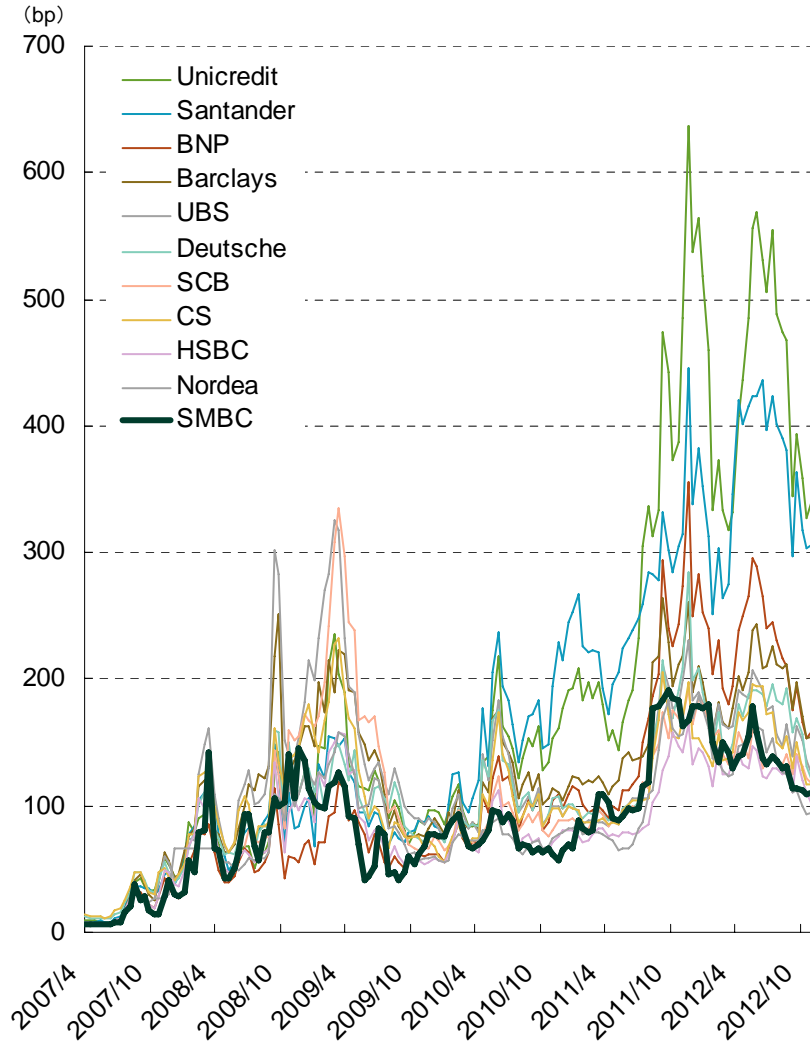
アジアにおける戦略的提携先*

	提携銀行名	当初提携	主な提携・協働内容
中国	中国銀行	2000年	人民元業務に関する協力等
	中国工商銀行	1995年	中国における船舶ファイナンス業務等
	中国農業銀行	2002年	中国における資金調達等
韓国	<u>國民銀行</u>	2007年	日韓の内外における顧客相互紹介、シンジケーション、資金調達等 2008年、持株会社KBフィナンシャル・グループに出資
台湾	第一商業銀行	2007年	中国・台湾における地場通貨調達、拠点ネットワーク活用等
香港	<u>東亜銀行</u>	2008年	中国・香港における相互顧客紹介、クレジットカード、資金調達等 2009年、出資
フィリピン	メトロバンク	1995年	フィリピンにおける顧客紹介、地場通貨取引、拠点ネットワーク活用等 2007年、ジャパンデスク設置
ベトナム	<u>ベトナムエグジムバンク</u>	2007年	ベトナムにおけるリテール・SME分野等 2008年、出資 2009年、技術支援契約締結
マレーシア	RHB銀行	1974年	マレーシアにおける地場通貨調達、決済業務、イスラム金融等
インドネシア	バンク・セントラル・アジア	2009年	インドネシアにおける地場通貨調達、決済業務(CMS)等
カンボジア	アクレダ・バンク	2012年	カンボジアにおける拠点ネットワーク活用、決済業務、貿易金融等
インド	<u>コタック・マヒンドラ銀行</u>	2010年	インドにおける資産運用(インフラファンド設立)、証券業務等 2010年、出資

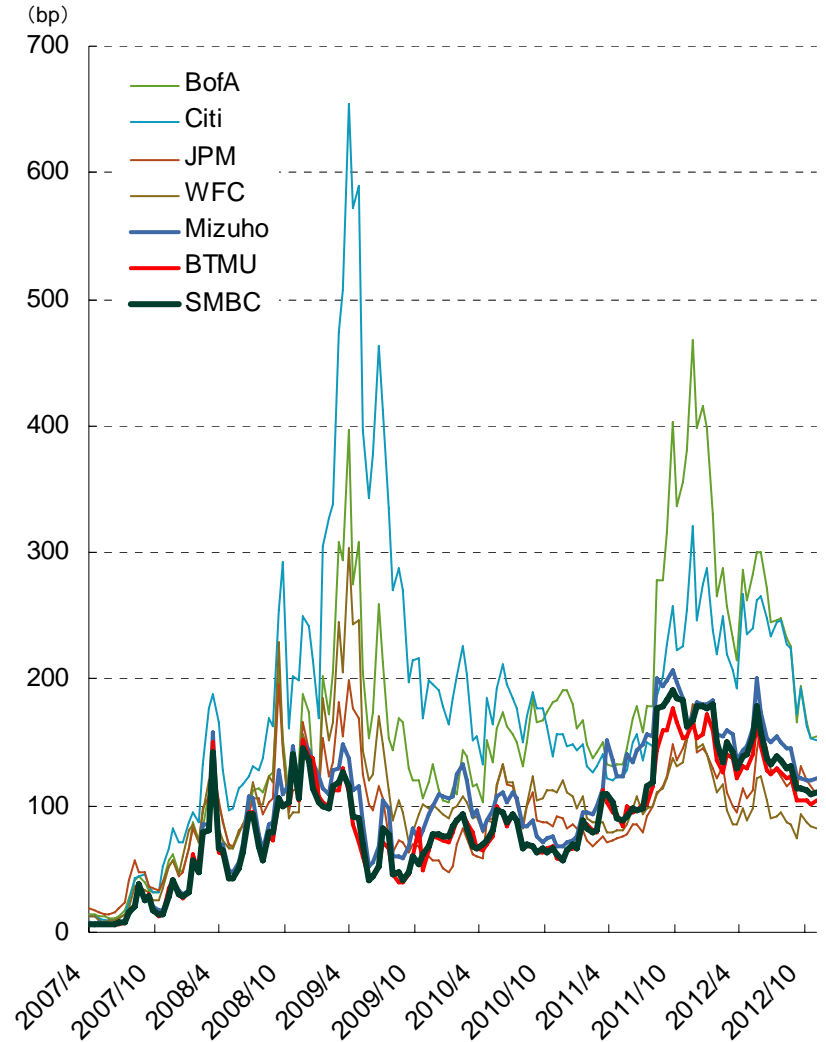
* 下線は、SMBCが出資している提携先

CDSスプレッド比較*1

欧銀(ユーロ建)*2



邦銀・米銀(米ドル建)



*1 出所: Bloomberg. シニア5年物のCDSスプレッド。米銀及びクレジットスイスは持株会社、その他は中核銀行。 *2 SMBCのみ米ドル建

国際的な金融規制への対応

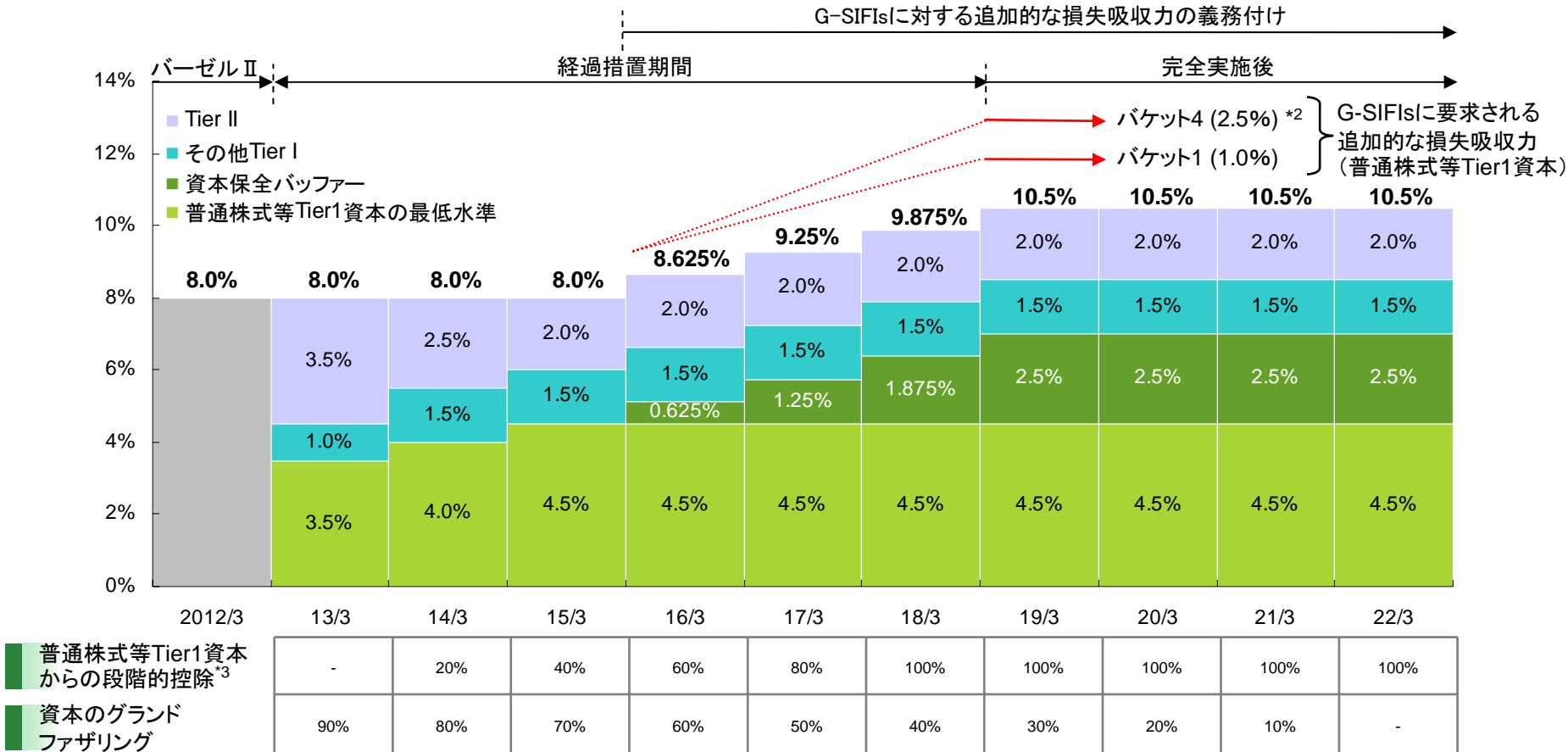
対象金融機関	主な規制メニュー	規制の概要	導入時期	当社への影響・対応
	G-SIFIsへの追加的資本賦課 G20	<ul style="list-style-type: none"> バーゼルⅢ規制に上乗せして資本賦課 当社のコアTier I比率要件:8.0% 	2016年	◎ 2014年3月までに前倒しでコアTier I比率8%達成を目標
	再建・破綻処理計画 G20 米 英	<ul style="list-style-type: none"> SMFGでは2012年末に提出する必要 米国業務に係る提出が必要となる可能性 英国現法(SMBCE)の計画提出が必要 	2012年末 米2013年12月? 英2012年12月	○ それぞれの期限内提出に向け策定作業中
	デリバティブ規制 G20 米	<ul style="list-style-type: none"> 清算機関への取引集中義務 米ドッド・フランクでは銀行本体でのデリバティブ取引は原則禁止(push-out条項) 	2012年12月 米2012年7月	△ 投資銀行対比影響は相対的に僅少なながら、必要となる対応を準備中
	業務範囲規制 ボルカールール EU 米	<ul style="list-style-type: none"> 英国・欧州ではリテール銀行部門の法的分離を検討(リングフェンシング) 	未定	◎ 英国内でリテール業務運営せず(規制詳細は継続注視)
		<ul style="list-style-type: none"> 米国業務としての自己勘定トレーディング、ファンド投資を制限 	2012年7月 (移行期間開始) 2014年7月 (完全施行)	○ 関連業務は限定的との認識ながら規制動向を継続注視
	自己資本規制 G20	<ul style="list-style-type: none"> バーゼルⅢ:最低所要自己資本比率の引上げ、資本の質・リスク捕捉の強化 	2013年	◎ 2014年3月までに前倒しでコアTier I比率8%達成を目標
		<ul style="list-style-type: none"> トレーディング勘定の抜本的な見直し(マーケットリスクウェイトの更なる強化等) 	未定	△ 規制詳細は未定。内容次第で相応の影響が出る可能性
	レバレッジ規制 G20	<ul style="list-style-type: none"> 会計上の総資産やオフバランスを加味し、ノンリスクベースのレバレッジ比率を規制 レバレッジ比率$\geq 3\%$(試行期間中) 	2018年	○ 達成可能な認識ながら、国内規制化まで継続注視
	流動性規制 G20	<ul style="list-style-type: none"> LCR:ストレス時の預金流出や短期調達困難化等への対応力を強化 LCR$\geq 100\%$ 	2015年	○ 潤沢な国内預金を背景に投資銀行対比相対的優位と認識。外貨資金繰り等では一層磐石な運営を目指す
		<ul style="list-style-type: none"> NSFR:長期の運用資産に対応する長期・安定的な調達源の確保 NSFR$> 100\%$ 	2018年	
その他 G20	<ul style="list-style-type: none"> シャドウ・バンキング規制:MMFやレポ取引・証券化等の銀行類似業務への規制強化 	未定	△ 規制の方向性は未定であり、引続き動向注視	

◎ 規制水準十分達成可能 ○ 規制水準達成可能 △ 影響不透明

新たな自己資本規制の概要

2012年3月、金融庁が自己資本比率規制(第1の柱)に関する告示を一部改正*1

- ✓ バゼルⅢテキストで公表された内容を反映
- ✓ 邦銀の決算期に合わせて2013年3月末から適用



*1 2014年以降に適用が予定される他の規制(資本保全バッファー、流動性規制など)に関する告示案は、今後公表される見込み。

*2 この他、バケット5(3.5%)として、システム上の重要性の程度を更に増す意欲を抑制するための空バケット有り *3 繰延税金資産、モーゲージ・サービシング・ライツ及び金融機関に対する出資を含む

本資料には、当社グループの財政状態及び経営成績に関する当社グループ及びグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収及び経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスク、不良債権残高及び与信関係費用の増加、保有株式に係るリスクなどです。こうしたリスク及び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものを参照ください。